

第七十九回帝國議會
衆議院

日本銀行法案外二件委員會會議錄(速記)第九回

付託議案
日本銀行法案(政府提出)(第一七號)
戰時金融庫法案(政府提出)(第一八號)
臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)(第一九號)

會議

昭和十七年二月三日(火曜日)午前十時二十二分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 板谷 順助君

理事横川 重次君

理事長井 源君

理事本田 英作君

井阪 豐光君

大口 喜六君

菊池 良一君

木暮武太夫君

豐田 豐吉君

內藤 正剛君

西村金三郎君

松永 東君

石坂 豐一君

河合 義一君

水谷長三郎君

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 賀屋 興宣君

出席政府委員左ノ如シ

大藏省理財局長 山住 克巳君

大藏省銀行局長 山際 正道君

大藏省爲替局長 原口 武夫君

大藏省會社部長 田中 豐君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

日本銀行法案(政府提出)

戰時金融庫法案(政府提出)

臨時資金調整法中改正法律案(政府提出)

○板谷委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス――

武田德三郎君

○武田委員 私ハ先達デ以來大藏大臣ニ質問ヲ致シマシタガ、ソレハ主トシテ管理通貨ヲ前提トシテ本案ヲ提案サレテ居ルノデアラウカト云フヤウナ意味ニ於テ質問ヲ致シタノデアリマスガ、遂ニ結論ニ達シナイヤウナ譯デアツタノデアリマス、ソレデ重ネテ此ノ點ニ付テ大藏大臣ニ御確メラシテ、然ル後ニ其ノ他二、三ノ問題ヲ御尋ネ致シタイト云フノ進ンデ參ツタノデアリマス、所ガ昨日西川君ノ質問ニ對シテ、大臣ノ御意向ハハツキリシタコトヲ覺エタノデアリマス、即チ大藏大臣ハ管理通貨制度ヲ採ルト云フ建前デ、貨幣法ノ改正ヲ前提トシテ此ノ案ヲ作ツタモノダト云フ意味ノ御答辯デアツタヤウニ思フノデアリマス、唯此ノ際貨幣法ノ改正案若シハ廢止案ヲ提出シナカッタノハ、戰時ニ必要ナ限度内ニ於テ法案ヲ出サウト云フ申合セニ依ツテ、必ズシモ今日ハ貨幣法ノ改正案若シハ廢止案ハ出サナクテモ差支ナイト云フヤウナ見解カラ出サレナカッタノデアツテ、遠カラズ貨幣法ノ根本的改正案ヲ出スノダ、斯ウ云フ御答辯デアツタノデアリマス、隨テ私モ今日マデ質問シテ結論ヲ得ナカッタ問題ハ是デハツキリ致シタト思フノデアリマス、結局スル所、此ノ貨幣制度ノ根本問題ニ付テハ、賀屋サント私共ノ考ヘハ全然對立的ナルト云フコトガ、茲ニハツキリ致シタ

ノデアリマス、是レ以上ハ質問ノ領域ヲ超エテ討論ノ領域ニ入ルト思ヒマスカラ、私ハ此ノ點ニ關スル質問ハ是デ止メタイト思フノデアリマスガ、併シナガラ此ノ際私ハ、政府ノ政策ニ出來得ルダケ協力シタイト云フ心持カラ、二、三ノ注意ヲ申上ゲテ置クノガ適當デアラウト思ヒマス、敢テ私ハココデ反對論ヲ申ス譯デハナイノデアリマスガ、私ハ此ノ貨幣制度ヲ如何ニスルカト云フ根本問題ハ、戰後世界的ノ大問題ニナルデアラウト思フカラデアリマス、第一次世界戰爭ノ終ツタ後ニ於テハ、此ノ貨幣ノ問題ガ相當論議サレテ、「イギリス」ノ如キハ「マクミラン」委員會ト云フ大キナ委員會ヲ作ツテ之ヲ討議シ、國際聯盟ニ於テモ幾ツカノ委員會ヲ作ツテ之ヲ討議ラシテ、隨分詳細ナ報告書モ出テ居ルコトモ御承知ノ通りデアリマス、又我ガ國ニ於テ明治三十九年ニ金本位制ヲ採用スル時モ、是モ相當朝野ノ權威者ヲ網羅シタ大キナ委員會ヲ作ツテ、約二箇年ニ亙ツテ審議サレテ、龐大ナ報告書ガ出テ居リマス、左様ナ譯デアリマスカラ、是ハサウ輕々シク斷定スベキモノデハナイ、昨日ノ賀屋サントノ御聲明ハ、善ク言ヘバ大膽ト申シマセウカ、惡ク言ヘバ稍、輕率ノ謗ヲ免レナイノデハナイカト云フ風ニ私ハ考ヘマス、一體此ノ問題ヲ御決定ニナルニ付キマシテ今申上ゲルヤウニ、何レ其ノ内ニ貨幣法ノ改正案ヲ御出シシナルト御言明ニナツテ居ルノデアリマスカラ、

ソレニ對シテハ最モ慎重ナル態度ヲ執ツテ願ヒタイト思ヒマス、私ノ想像スル所ニ依リマス、賀屋サント昨日ノ御聲明ノ裏面ニハ、極端ナル「ブロック」經濟ヲ豫想シテ居ラレルノデハナイカトモ私ハ考ヘマスガ、我ガ國ノ皇謨ノ實現ノ上カラ考ヘマス、戰後ニ於テハ如何ナル形ヲ取ルカハ豫想出來セスケレドモ、私ハ或ル程度ノ世界經濟ガ行ハレルモノト思フノデアリマス、即チ我ガ國ノ皇謨ト申シマスレバ、萬國ヲシテ各、其ノ所ヲ得シメ、生民ヲシテ各、其ノ堵ニ安ゼシムルト云フコトデアリマス、シテ見マス、外ノ國々ガ「ブロック」經濟ヲ主張シタリ、英米ノ如ク國際的擄取ヲ主トシテ居ル國柄ノ考ヘ方トハ、我ガ國ハ違フノデアリマス、我ガ國ノ皇謨ノ實現スルト云フ場合ニハ、極端ナル「ブロック」經濟ガ行ハレル筈ハナイ、ドウシテモ或ル程度ノ世界經濟ガ、要素ハ違フデアリマセウガ、行ハレルモノト見ナケレバナラスト思フノデアリマス、私共皇謨ノ解釋上サウ考ヘマス、隨テソレ等ノ點ニ付テハ深甚ナル考慮ヲ拂ハレズシテ、此ノ管理通貨ト云フヤウナコトヲ安易ナ心持ヲ以テ決定ヲサツテ下サツタリ、或ハ御考ヘ下サルト云フコトハ、相當ニ御注意ヲ拂ツテ願ヒタイト思ヒマス、先ヅ其ノ點ハ此ノ程度ニシテ置キマシテ、次ニ本案ニ關聯シテ伺ヒタイコトハ、本案第一條、第二條ニ於テ新日本銀行ノ性格ト云フモノハ非常ニ公益性ヲ増スコトニナリ

マス、是ハ尤モナコトデアツテ、私ハ是ガ
 本案改正ノ重點デアルト考ヘテ居リマス、
 是ハ全然結構ナコトト思ヒマスガ、併シ一
 方ニ今日現在ノ金融機關ノ情勢ヲ見マス、
 民間ノ金融機關ハ別ト致シマシテ、政府内
 部ニ於ケル金融機關ニ於キマシテモ、例ヘ
 バ預金部ノ如キ、殆ド此ノ本來ノ性質ト變
 リマシテ、短期金融市場ニマデ手ヲ出スヤ
 ウニナツテ居リマス、是ガ善イカ悪イカハ
 別問題トシテ、是ハ現實ノ事實デアリマス、
 即チ一昨年ノ秋ノ如キハ一例ヲ申上ゲルナ
 ラバ、金融逼迫シタ際ニ預金部ガ自ラ發
 動シテ、與銀ヲ通シテ五千萬圓ノ「コール」
 市場ニ放出シテ居ルト云フヤウナ、純然
 タル短資ノ金融機關ノ働キサヘモ致シテ居
 ルヤウナ狀態デアリマス、其ノ他ニ遞信省
 ニ於テハ簡易保險、是モ積立金ハ非常ニ澤
 山ノモノニナツテ居リマス、又各省ノ共濟
 組合ト云フヤウナモノモ、近來ハ相當ナ資
 金ヲ以テ、其ノ運用ヲ致シテ居リマス、是
 ハ必ズシモ日本銀行總裁ヲ通ジテ、統一的
 ニ有機的ナ關聯ヲ持ツテ居ルト云フ譯デモ
 ナイノデアリマス、一ニ大藏大臣ノ裁量ニ
 依ツテ行ハレルノデアリマスカラ、成程大
 藏大臣ガ總テヲ統制シ、總テニ有機的ノ關
 聯ヲ持タシメヨウト云フコトデ出來ナイ
 コトモナイト云フコトモ言ヒ得ルカモ知レ
 マセヌ、併シナガラ總テノコトハ大藏大臣
 一人デヤラレルモノデナクシテ、大藏省內
 ニモ色々ノ部局ガアリマス、昨日ノ如キハ
 現ニ大藏大臣御自身モ申サレタ通りニ、即
 チ部局ハ、一、二ノ部局ヲ除イテハ殆ド金
 融ニ關係ナイ部局ハナイト云ハレル位
 ニ、金融ニ關係シタ部局ハ各方面ニ分レテ
 居ル、ソレカラ尙ホ私ノ考ヘル所ニ依ルト、

金融ヲ適當ニ調整致シ、資金ノ配分ヲ合理
 的ニ致スト云フ上ニ於テハ、ドウシテモ金
 融ト生産ノ關係ヲ有機的ニ關聯セシメナ
 ケレバ旨ク行カナイト思ヒマス、然ルニ生
 産ノ如キハ主トシテ商工省ガ之ニ當ツテ居
 ルノデアリマシテ、大藏省ハ間接ノ又間接
 ト云フ關係ニ於テ、生産ノ統制ニ當ツテ居
 ルダラウト思ヒマス、此ノ關聯ヲ、最モ有
 機的ニ關聯スルノ方法ヲ御考ヘニナラナケ
 レバ、私ハ中々旨ク行カスノデヤナイカト、
 斯様ニ思フノデアリマスガ、唯昨日大藏大
 臣ノ御話ノ中ニモ一寸アリマシタガ、左様
 ナコトハ大藏大臣竝ニ次官ハ、各方面ノ部
 局若クハサウ云フ關係ノモノヲ巧ク統制ヲ
 シテ、監督ヲスレバ出來ルダラウト云フヤ
 ウナ御意見デアリマシタガ、今日ハ已ムヲ
 得ズシテ此ノ官制ノ上カラハサウスル外ハ
 ナイノデアリマセウ、併シナガラ私ハソレ
 ハ言フベクシテ行ヒ得ナイコトデ、假リニ
 出來タト致シマシテモ、痒イ所ニ手ガ届カ
 ナイヤウナ不満足ノ結果ニ陥リハシナイ
 カ、今日官界ノ新體制トカ、或ハ官制ノ根
 本的改正トカ言ハレルモノハ、今日ノ現狀
 デハ、サウ云フコトハ旨ク有機的ニ連絡ガ
 取レナイト云フ所カラ、サウ云フ議論ガ出
 テ來ルノデハナイカト思ヒマス、今日金融
 機關ノ中心トナルベキ中央銀行ノ改組ヲサ
 レタ結果、金融ノ統制資金ノ配分ハ、一ニ
 政府ノ政策ニ依ツテ決メラレルコトニナツ
 テ居ル以上ハ、其ノ内部ノ金融機構ニ關ス
 ル統制ト云フモノハ、極メテ必要ナ狀態ニ
 ナツテ來タノデアリマスカラ、此ノ點ニ於
 テ何等カノ新構想ヲ加ヘラレルコトハ、必
 要ナコトデハナイカト斯様ニモ考ヘルノデ
 アリマス、其ノ點ニ向ツテ大藏大臣ノ御考

ヘフ承リタイト思ヒマス
 ○賀屋國務大臣 預金部ノ資金ノ放出ノ御
 話ガアリマシタガ、大藏大臣ガ單獨ニヤ
 ルト云フ御話デアリマシタガ、實情ハサウ
 デナイノデアリマシテ、預金部ノ資金ガ短
 期市場ニ出タノハ昭和十一年暮ガ初メデア
 リマシテ、當時馬場大藏大臣ノ下ニ私ガ屬
 僚ト致シマシテ、私ノ發議ガ出マシタ、而モ
 日本銀行ト緊密ナ連絡ヲ執リ、同じ意見ト
 ナリマシテ、サウシテ與銀ヲシテヤラセマ
 シタ、無論馬場大藏大臣ガヤラレタコトデ
 アリマスガ、實ハ私ガヤリマシテ、當該部
 局ノ者ガチヤント其ノ考ヘデ、大臣モ聽キ
 ナガラ日本銀行ト連絡ヲ執リナガラヤル、
 チヤント部局ハ部局デヤルト云フコトニ出
 來テ居リマシタ、産業資金ノコトデアリマ
 スガ、是ハ此ノ席上デ申上ゲタノデアリマ
 シテ、事變以來事變擴大決マリマシテ、
 其ノ決マツタ晩ニ私ガ考ヘタノハ臨時資金
 調整法デアリマス、是ハ何カト云フト、産
 業ト金融ノ合一デアリマス、戰時ノ産業ハ
 唯何デモ生産力ヲ起セバ宜イト云フ單純ナ
 モノデハアリマセヌ、殊ニ戰時ニナル前ニ
 近衛內閣ガ出來マシタ時ニ、私ハ産業政策
 ノ一ツトシテ産業擴充ノ具體的方策ト云
 フコトヲ申シマシタ、世間デハ具體的方策
 ト云フコトヲ拔カシテ居リマスガ、私ハ昭
 和十一年以來世間ノ様子ヲ見マシテ、唯産
 業擴充トサウ云フモノデハアリマセヌ、産
 業擴充ニ必要ナ設備資材ニ限りガアル、然
 ルニ生産力ヲ擴充シナケレバナラス、茲ニ
 於テ國家ノ要請ニ最モ應ズルヤウニ、産業
 計畫ヲ決メテ、ソレニ資材、資金、勞力ヲ集
 中サセナケレバナラスト云フ考ヘカラ、産
 業擴充ノ具體的方策ト云フコトヲ三大經濟

政策ノ一ツノ眼目トシテ時ノ閣議ニ於テ、
 決定致シマシタ、詰リソレデアリマシテ、
 全金融ガ戰費ノ調達ト國家ノ要請スル生産
 力擴充詰リ産業政策ニ即應スルト云フ根本
 的ノ考ヘ方ガ當時カラ一貫シテ居リマス、
 ズツト今日マデ參ツテ居リマシテ、ソレ以
 來二百五十億ノ産業擴充資金ヲ僅カニ四年
 餘リノ間ニ投下シ得マシタノハ、サウ云フ
 政策ヲ歴代政府ガ執リマシタ結果、全ク産
 業ト金融ガ合一的デアルト云フ大ナル政策
 ガ執ラレマシテ、結果論トシテハ實ニ今マ
 デ例ヲ見ザル飛躍的ノ産業擴充ヲ致シテ居
 ル、一面ニ不必要ナル方面ニハ金ヲ出サヌ、
 必要ナル方面ニ重點的ニ行クト云フコトデ
 アリマシタ、而モ私共ガ希望シテ居リマシ
 タノハ、産業計畫ノ具體策ト云フモノガ出
 來ナケレバナライ、如何ナル種類ノ産業
 ヲドノ程度ニ擴張スルカ、ドンナ好イ、必
 要ナル産業デモソレヲ無制限ニヤルト云フ
 譯ニ參リマセヌ、又比較的輕イト思ハレル
 産業デモ或ル程度ヤラナケレバナラスト云
 フコトガアルノデアリマス、併シ吾々ノ計
 畫經濟ガ未發達デアリマシテ中々サウ云フ
 産業計畫ガ出來ナイ、ソコデ私ハ資金調整
 法ヲ作ル時ニ、私自ラ尋常一年生利ノヤリ方
 ト云フコトヲ言ツテ居リマスガ、是ハドウ
 云フヤリ方カト云ヘバ、産業ノ種類ヲ數種
 類ニ分ケテヤツテ居ル、是ハヤル時ニハ相
 談ヲ要スル、是ハヤラスデモ宜イ、此ノ分
 ケ方ガ實ニ幼稚ナノデアリマシテ、ドノ産
 業デモ、此ノ種類ハ何處マデ擴ゲテモ宜イ
 ト云フコトハナイ、皆國家ノ生産總力ト云
 フモノノ調和ヲ保ツテ行ク上ニ考慮シナケ
 レバナリマセヌ、ソコマデノ産業計畫ガ出
 來マセヌカラ、已ムヲ得ズサウ云フ方法デ

ヤリマシタ、産業ノ具體的企業計畫、國家ノ具體的政策ガ決マルノヲ待ツテ皆ソコニ集メテ行カウト云フ所ニ非常ナ熱心ヲ以テ今日マデ來テ居リマス、産業ト金融ガ即應スルコトガ即チ政策其ノモノデアリマス、ソレニハ金融全體ガ殆ドサウナルノデアリマシテ、之ヲ一部局ニ統合シタ所デ出來ルモノデアリマセヌ、詰リ昨日モ他ノ質問ニ申シマシタガ、商工省ナリ、農林省ナリ或ハ交通關係ナリ、是ハ産業計畫ト申シマシテモ、商工省バカリデアリマセヌ、ソレニ金融部門ガ組合ハサツテ行クコトガ必要ナノデアリマシテ、一ツニ集メナケレバ、是ハ何ニモナリマセヌ、私ハ其ノ意味ニ於キマシテ、産業ト金融ヲ統合スル爲ノ大キナ機關ヲ拵ヘルナント云フコトハ毛頭考ヘテ居リマセヌ、今ノ商工省ヤ大藏省ガ農林、逓信、鐵道ト云フモノト一クサリニナラナケレバイカヌ、斯ウ考ヘテ居リマス、ソレガ運轉出來ヌヤウナコトナラバ、到底國家ノ使命ヲ達成スルコトハ出來ナイ、斯ウ思ツテ居リマス

○武田委員 賀屋サンノ御意向ハ分ツテ居リマス、前段ノ御話ハ、私ガ引例致シタノハ興業銀行ニアラズシテ、大藏省ノ預金部ヲ引用致シタノデアリマス、興業銀行ハ大藏省ト資金ノ緊密ナル連絡ヲ取ツテ居ルコトハ申上グルマデモナイ、是ハ私モ承知シテ居リマス、私ハ獨リ預金部ヲ議論ノ對象トシタ譯デハナイノデアリマス、一ツノ引例デアリマスガ、詰リ預金部ノ運用ハ今日ノ日本銀行トハ關聯ナク出來テ居ルト思ヒマス、其ノ他逓信省ノ簡易保險ノ運用モ日本銀行トハ關聯ナシニ——内部的ニ如何ナル關聯アルカハ知リマセヌケレドモ、

表面ニ現ハレタル所ニ於テハ、關聯ナシニ行ハレテ居ルト思ヒマス、又先程申上ゲタ通りニ、各省ノ共濟組合モ其ノ通りデアルト思ヒマス、今日此ノ金融ヲ統制シヨウト云フノガ、此ノ新日本銀行法案ヲ御提出ニナツタ主ナル理由ノ一ツデモアルノデアリマスカラ、此ノ金融ヲ統制スルニ於テハ、左様ニ獨立——ト申スノハ適當デナイカモ知レマセヌガ、左様ナ日本銀行ニ統一サレナイ分立シテ居ル各種ノ金融機關ガアルガ、併シナガラ實際ノ要求ハ總テノ金融ヲ一ツノ下ニ統一シテ國家目的ニ副フヤウニ運用シナケレバナラヌト云フ意味ニ於テハ、此ノ儘デハ不便デハナイカ、茲ニ何等カノ構想ヲ必要トシハスマイカ、斯ウ云フコトヲ御尋ネ致シタノデアリマス

ソレカラ今ノ興業資金ノコトニ付キマシテハ、私ハ大藏省ト商工省ヲ合併セヨト云フ意味デ申上ゲテ居ルノデハナイノデアリマス、之ニ深キ關聯アルコトハ今賀屋サンノ御話ニ依ツテモ分ツテ居ル、是ハ何人モ分ツテ居ルコトデアリマス、併シナガラ産業資金ノ融通ト生産ノ計畫ガ適當ニ合理的ニ「マッチ」シナイガ爲ニ、現在種々ナル不便ヲ生ジテ居ル、例ヘバ或ル事業ヲ起ス爲ニ商工省ニ願書ヲ出ス、モノニ依ツテハ同時ニ又大藏省ニモ出スコトニナツテ居ル、或ハ又商工省ダケデ出願スルコトニナツテ居ルモノモアル、所ガ商工省ハ宜イト言ツタケレドモ、大藏省ニ行ツテ問ヘタ、或ハ大藏省ノ方デハ宜イト言ハレタガ商工省ノ方デハソレハイカヌト云フコトデ、其ノ許可スルカ否カト云フ決定ガ非常ニ長イ時間掛ツテ居ルノガ今日ノ現狀デアリマス、政府モ手古摺ツタト見エテ、今後ハ許可認可制ヲ一定ノ時間ニ

定メルト云フ御考ヘラシテオイデニナルヤウデアリマスガ、併シソレヲ統一シテ決メルト云フ何等カノ組織力機關ガナケレバ、ドウシテモ手間取ルノデス、私ハサウ云フ現實ノ事實ヲ無視シテ、大藏省ハ大藏省、商工省ハ商工省デヤツテモ、詰リ許可スル産業ト、許可シナイ産業ト、或ハ許可シテモ制限スル産業トヲ先ニ決メテ置イテソレニ則ツテヤルノダト大藏大臣ハ言ハレルケレドモ、ソレナラバ今マデサウ云フ不便ガ生ズル管ガナイ、現ニ最近マデ、又現在デモサウダガ、實際産業ノ衝ニ當ツテ居ル者ハ非常ニ不便ヲ感ジテ居ルノデアリマス、又政府ノ計畫モ、愈々戰爭ガ斯ウ云フ重大ナ段階ニ達スルト致シマスレバ、益々計畫經濟ノ方向ニ進ムト云フコトハ已ムヲ得ナイノデアリマセウ、サウ致シマスルナラバ、金融ト生産ト云フモノヲモット有機的ニ關聯スル方法ヲ更ニ工夫サルベキ必要ガアルノデハアルマイカ、斯ウ云フ意味デ御尋ネシタノデアリマス、其ノ點ニ付テ今一應大藏大臣ノ御意見ヲ明確ニ承リタイト思ヒマス

○賀屋國務大臣 先程興業銀行通ジテト申シマシタノハ、御話ノアツタヤウニ、預金部資金ヲ興業銀行通ジテ出シタコトハ、御指摘ノ事實ト一致シテ居リマス、ソレカラ企業ニ付キマシテハ、他ノ監督法令ヤ色々ナ立場カラ、商工省ナド色々ナ關係ガアリマセウガ、其ノ企業ニ資金ヲ出スヤ否ヤト云フコトハ臨時資金調整法デ各省集マツテ決メテ一本デ參ツテ居リマス、其ノ觀點デハソレデ濟ンデ居リマスガ、近來ハ世相ガ複雑デアリマスカラ、他ノ色々ナ取締ノ觀點カラ來ルノハ別デアリマスガ、出來ルダケ緊密ナル連絡ハ執リタイノデアリマス、唯宜シイカ、宜シクナイカ、是ハ中々單純ニ行カヌト思ヒマス、是ハ色々御不便ナコトガアリマシタラ、又具體的ノ御指示ヲ戴キマスレバ研究シテ申上ゲマスガ、各種ノ觀點カラ見ナケレバナリマセヌノデ、唯宜イカ惡イカト云フ風ニハ行キマセヌガ、資金關係——企業ニ資金ノ供給スルヤ否ヤト云フコトハ、其ノ企業ガ國家的ニ必要デアルカナイカ、又ドノ程度ニヤルカト云フコトハ臨時資金調整法ノ委員會デ關係省皆集マリマシテ、其處デ決定ヲ致シテ居リマス、又是ハ議會ノ御審議ハ願ハナカツタノデアリマスガ、金融統制會ヲ作ルコトニ致シテ居リマシテ、民間金融ノ部面ハ其處デ統制的ニ、計畫的ニ參リタイト思ツテ居リマス、其ノ外ニ預金部資金トカ、簡易保險資金所謂政府資金ガ存在致シマスシ、政府ノ共濟組合資金モ亦其ノ一ツニ舉ゲテ宜イト思ヒマス、此ノ全體ノ統制ハ大藏省デ致シテ行キマス、詰リ其ノ統制自體ノ衝ニ私ガ當ラナケレバナラヌ譯デアリマス、政府資金ノ主ナモノハ預金部資金、簡保資金、細カイモノハ政府共濟資金等デアリマスガ、民間ハ一丸トシテ金融統制會、是ガ統制體系デゴザイマシテ、此ノ統制會ハ今カラ作ルノデアリマス、是ガ出來タ後ニハ全體ノ統制樣相ハソレダケ變ハルデアラウト思ヒマス

ソレカラ今ドウ云フモノヲ作ルカト云フ御質問デアリマスガ、私ハ大筋ノコトヲ前ニ申上ゲタノデ、成ベク國民個々ニ不便ヲ掛ケナイヤウニ、出來ルダケ之ヲ早く纏メルト云フコトハ既ニ考ヘテ居リマスカラ、是ハ研究ガ出來次第改善シテ參リタイト思ツテ居リマス

スノデ、マダ多少不満足ナ點モアリマスガ、其ノ點ハ此ノ程度ニシテ次ノ質問ニ移リマス、政府ハ凡ル方法ヲ以テ産業資金ノ融通ヲ便利ニ豊富ニスルコトニ御苦心ナサツテ居ルコトハ能ク分ツテ居ルノデアリマス、本改正案ヲ御提出ニナツタコト、又戰時金融庫ヲ御提案ニナツタノモ皆其ノ趣意ニ出デテ居ラレ、私モ其ノ御趣意ニハ賛成デアリマスガ、斯様ニ産業資金ヲ迅速ニ豊富ニ供給スルコトニ御苦心ニナツテ居ル結果、ドウ云フ現象ヲ今日ノ日本經濟界ニ生ジテ居ルカト云フト、茲ニ變フベキ現象ガ一ツアルト私ハ思フノデアリマス、産業資金ガ政府ノ御努力ニ依ツテ漸次増シツツアルコトハ事實デアリマスガ、ソレニ伴ウテ生産ノ増加ハ割合ヲ保ツテ居ラスノデアリマス、政府ガ努力サレテ、産業資金ガ増加スル、産業資金ノ増加ニ伴ツテ生産ガヨリ良キ比例ヲ以テ増加シテ居ルト云フコトデアリマスルナラバ、是ハ實ニ萬全デアリマス、少クトモ戰前ト同ジ割合ニ産業資金ト生産ガ増加シツツアルナラバ、尙ホ恕スベキデアリマス、併シ實際ノ結果ハ、産業資金ガ政府ノ非常ナ苦心ヲ以テ供給ヲ増加サレテ居ルニ拘ラス、其ノ半面ニ於テ生産ハ産業資金ノ割合ニ比シテ減シツツアルヤウニ私ハ思フノデアリマス、此ノ事實ヲ明カニスル爲ニ、參考資料トシテ實ハ其ノ關係ヲ御調べ願ツテ居ルノデアリマスケレドモ、マダ參考資料ヲ頂戴致シマセヌカラ、數字ノ確的ニ申上ゲルコトハ出來マセヌガ、私ノ種々ナル經濟資料カラ想像スル所ニ依リマス、其ノ割合ハ順次低下シツツアルヤウニ思ハレルノデアリマス、産業資金ノ増加ニ生産ガ伴ハスト云フコトハ、言

葉ヲ換ヘテ言ヘバ、一商品ノ單位當リニ生産資金ガ餘計要スルト云フコトニナルノデアリマス、同一ノ商品ニ生産資金ヲ多ク要スルト云フコトハ、其ノ生産費ガ増スト云フコトデアリマス、隨テ此ノ現象ヲ其ノ儘ニシテ置クト云フコトハ、低物價政策トモ矛盾スルコトニナルノミナラズ、生産ノ増加ヲ最モ急務トスル場合ニ於テ、政府ハ生産擴充、生産擴充ト云フコトヲ頻リニ言ハレテ、又何人モ之ニ全力ヲ注イデ居ルノデアリマスガ、併シ生産擴充ト生産ノ増加トハ必ズシモ觀念ガ同ジデアリマセヌ、生産擴充ヲシテモ、生産ガソレニ伴ハスト云フコトデアレバ、是ハ經濟界ニ於ケル重大ナル病氣ガ其處ニ現ハレテ居ルト言ハナケレバナラスノデアリマスルカラ、其ノ病源ヲ診察シテ、之ニ對應スル處方箋ヲ御作りニナルト云フコトガ大藏大臣ノ責任デアルト思フノデアリマスガ、其ノ原因ハ如何ナル點ニアルカ、又ソレニ向ツテ如何ナル對策ヲ御持チニナルカト云フコトヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

○賀屋國務大臣 世間ニモ生産ガ減退スルト云フ話ガアリマスガ、是ハ實ハ私ハ世間デハ結論ヲ御付ケニナル材料ガナイト思ヒマス、ト申シマスノハ、現在ハ國防力ニ直接ノモノハ無論、間接デモ重大ナ關係ガアリマスモノニ付キマシテハ、是ハ日本ノ戰鬪力ヲ現ハス其ノモノト云フテモ宜イコトデアリマス、隨テ日本ノ重要ナル生産方面ノ生産成果ガ如何デアルカト云フコトハ、是ハ分ラナイノガ本當デアリマス、分リマスノハ恐ラク輕工業トカ、サウ云フ方デアリマセウガ、是ハ戰時ニ於テ原料ノ關係、

又勞力デアルトカ資材トカ云フモノヲ國防産業等ニ轉用致ス爲ニ、寧ロ生産制限ヲ致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテサウ云フ生産ハ非常ニ減ジテ居リマス、サウ云フ方ハ割合ニ世間ニ分ルノデアリマスガ、今發表シテアリマス數字其ノ他ニ依ツテ之ヲ推斷スルコトハ困難デアラウト思ヒマス、私ハ必ズシモ世間ノ說ノ如ク日本ノ生産力ハ減ジテ居ラナイト思ヒマス、若シモ是ガ減ジテ居ルヤウデアリマシタラ、アアヤツテ支那事變ヲヤリ、北方ノ護リヲ安全ニシ、而モ南方ニアレダケノ大作戰ヲスルナドト云フコトハ出來スコトデアリマシテ、私ハ生産力ハ非常ニ増大シテ居ルト申上ゲテ宜イト思ヒマス、唯色々ノ場合ニ御耳ニ入ルコトガアルカト思ヒマスルガ、只今デハ御承知ノ如ク物資ガ中々不自由デアリマス、此ノ不自由ハ私ハ寧ロ斯ウ解シテ居ル、物資ガ少クナツタト云フヨリモ、物資ノ用途ガ非常ニ殖エタ爲ニ或ル方面ノ必要ニ對シテハ不足勝テアル、サウ云フ關係カラ生産ガ思フヤウニ伸ビナイト云フ點ガヨク言ハレルコトデアリマスガ、是ハ寧ロ金融方面ニアラズシテ物資方面ノ問題デアルノデアリマス、モウ一ツ斯ウ云フ考ヘガ出來マス、近來ハ國防工業ガ主トシテ發達スル、是ハ多ク重工業部門デアリマス、重工業ト輕工業ハ、其ノ生産品ノ價格ニ比シテ、固定資本ガ非常ニ重工業ニ多ク要スルノデアリマス、隨テ總テノ工業ヲ生産資本ト製品トノ割合デハ論ズルコトノ出來ナイ點ガアリマス、今ハ最モ多ク資本ノ要ルヤウナ方向ニ性質上事業ガ向イテ居ル、デアリマスカラ、一概ニ生産力ガ低下スルト云フ議論ハ私ハ餘リ贊成ヲ致シマセヌ、唯茲ニ注意

テ居ル次第アリマス

○板谷委員長 武田サン、アナタニ一ツ御願ヒガアリマスガ、別ニ言論ヲ制限スルト云フ意味デモアリマセスガ、ドウカ議論ニ互ラスヤウニ、成べく質問ノ要點ダケヲ御願ヒ致シマス、マダアトノ方モ相當控ヘテ居リマスカラ、アナタニハ相當ノ時間ヲ許シタ積リデアリマスカラ、ドウゾ簡單ニ御願ヒ致シマス

○武田委員 今大藏大臣ノ御話ノ如クンバ洵ニ仕合セノコト存ジマスガ、唯私ハ其ノ軍需生産ノ増加シテ居ルコトハ、數字のニハ承知シマセスケレドモ、ソレハ想像ニ難クナイト思ツテ居リマス、唯私ガ全體カラ見テ生産資金ノ増加ニ生産ガ逆行シテ居ルヤウナ事實ガアツテハ大變デアル、成程大藏大臣ノ仰シヤル通り、吾々ガソレヲ確的ニ擷ムダケノ資料ヲ今日ハ持ツコトガ出來ナイノデアリマスカラ、唯大藏大臣ノ言明ニ信賴スルヨリ仕方ガアリマセスガ、獨リ軍需工業ト言ハズ、生産資金ノ増加ニ伴ツテ生産モ共ニ進ミツツアル、斯様ニ承知シテ宜シイノデアリマセウカ、是ハ大藏大臣ノ言明ニ信賴スルヨリ仕方ガナイノデアリマスカラ、簡單ニ一言御答ヘテ願ヒタイ

○賀屋國務大臣 左様デゴザイマス、唯私ハ各工業部門ノ一々ニ付キマシテ只今申上

ガルコトハ出來マセヌ、國家全體トシテハ十分ニ増シツツアリマス

○武田委員 次ニモウ一ツ伺ヒタイコトガアルノデアリマス、本案ノ第二十八條ヲ拜見致シマス、其ノ「日本銀行ノ業務ニ協力セシムル爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」ト云フ意味ノ中ニハ、必要ニ應ジテ普通銀行ニ公債ノ消化ヲ命ズル、詰リ日本銀行ノ引受ケタル公債ノ買入ヲ命ズルコトヲ得ト云フヤウナ意味モ當然此ノ中ニ含マレテ居ルコトト思ヒマス、銀行局長ノ御説明ノ中ニモサウ云フ意味ガ含マレテ居ルヤウナ御説明ガアツタヤウニ伺ヒマス、又常識的ノ解釋トシテモアルカト思フノデアリマス、サウシマスルト、公債ノ消化ガ強制消

化ノ方面ニ一歩ヲ踏出シタト見テモ宜イヤウニ思フノデアリマス、又私ハソレガ必要デナイカト思フノデアリマス、昨日大藏大臣ガ數字のニ御説明ニナツタ上ニ於キマシテモ、昭和十七年度ノ公債消化資金トシテ豫定サレタモノハ百六十億、ソレニ生産資金トシテ豫定シテ居ルモノハ六十億デア

ル、公債ノ方ガ百六十億、生産資金ガ六十億ト云フト、二百二十億カラノ資金ヲ茲ニ蓄積シナケレバナラヌト云フコトハ明白デアリマス、又是モ其ノ見當ニ行クデアラウト思ヒマス、サウシマスルト、今年ノ貯蓄目的ヨリハ明年ノ貯蓄目的ハ非常ニ高い數字デアルコトモハ免レナイノデアリマス、サウシマスルト大藏大臣ガ機會アル毎ニ力

説サレル如ク、日本ノ戰時經濟ノ運営ハ一ニ國民ノ貯蓄ガ旨ク行カ行カヌカニ掛ツテ居ルト云フコトモ、是等ノ上カラ明白デアリマス、他ノ機會ニ大藏大臣ハ強制貯蓄ハ斷然ヤラスト云フコトヲ再三繰返サレテ居ルノデアリマスガ、其ノ點私ハモウ一度伺ハナクテハ非常ニ心配ダト思フノデアリマス、既ニ公債ノ消化モ強制消化ノ方面ヘ一歩ヲ踏出シタト同ジヤウナ意味合ニ於テ貯蓄モ亦強制貯蓄ノ方面ニ一歩ヲ踏出スベキ段階ニ今日ハ達シテ居ルノデハナイカ、斯様ニ私ハ考ヘルノデアリマス、勿論強制貯蓄ト言ヒマシテモ色々ノ方法モアリ、強

弱モアリマセウガ、ドウシテモ其ノ方面ニ向ツテ行カケレバ今日ノ現狀デハ困難デハナイカ、長イ目デ見レバ政府ノ放出資金ガ總テ國民ノ貯蓄トナルト云フ論理ハ、昨日モサウ云フ意味ノ質問應答ガアリマシタガ、私ハ異論ハアリマセヌ、ケレドモ時間的ニ於テ其處ニ非常ナ相違ガ出テ來ルノデアリマス、時間的ニ相違ガ出ルト云フコトハ、其ノ資金ガ長ケレバ長イ程其ノ間ニ資金ノ運轉回數ガ多クナル、資金ノ運轉回數ガ多クナレバ浮動購買力ガ増スト云フ結果ニナルコトハ私ガ申上ゲルマデモナク明白ナコトデアリマスルカラ、時間的ノ相違ト云フコトモ輕ク見ルコトハ出來ナイノデアリマス、ソレ故ドウシテモ愈、此ノ大東亞戰爭ガ起キテ明年度ノ臨時費トシテ百八十億ト云フ龐大ナ數字ヲ吾々ガ承認シナケレバナラヌヤウナ今日ノ事態ニ於キマシテハ、何等カ茲デ強制貯蓄ノ方面ニ少クトモ一歩ヲ踏出スダケノ御用意ガアツテ然ルベキデハナイカ、ソレデ此ノ頃我ガ國ノ國民貯蓄ハ四百二十億乃至四百五十億ダト云フコトヲ大藏大臣ガ増稅委員會デスカ、豫算總會カデ御言明ニナツタト云フコトヲ新聞デ承知シマシタガ、大藏大臣ハ其ノ貯蓄ノ構成ガ如何ナル割合ニ出來テ居ルト御考ヘニナツテ居ルノデアリマセウカ、私ノ知ル限りニ於テハ一昨年ノ「イギリス」ノ國民貯蓄ノ構成ハ勞働賃ニ於テ四〇%、俸給ニ於テ二十%ト云フ數字ヲ發表シテ居ルノヲ承ツテ居ルノデアリマス、「イギリス」ト我ガ國ハ自ラ狀況モ違ヒマスケレドモ、四百二十億乃至四百五十億ト云フ大體ノ國民貯蓄ノ總額デアルト言ハレルナラバ、「イギリス」通リニハイカストシテモ、趨勢ト致シマシテハヤ

ハリ其ノ國民貯蓄ノ大イナル部分ガ賃金デアリ、俸給デアル、稍「イギリス」ノ趨勢ニ似寄ツタ結果ヲ見テ居ルノデハナイカ、斯ウ想像スルノデアリマス、若シ果シテサウデアリマスルナラバ、此ノ國民貯蓄ヲ適當ニヤラスト云フコトハ賃金ト俸給ニ重點ヲ置カナケレバナラヌト思フノデアリマス、勿論今日ハ各工場職場ニ於テ其ノ職工等ニ貯蓄獎勵ノ組合ヲ作ラスヤウナコトニ御努力ニナツテ居リマス、併シナガラ獎勵ト云フ程度デハイカヌノデアリカ、此ノ國民貯蓄ノ構成ノ大部分ヲ占メテ居ル賃金俸給等ニ於テ或ハ貯蓄債券ノ何割ヲ持タスト云フヤウナ程度マデ少クトモ進ンデ行カンデハナラヌノデアリカ、斯様ニ實ハ考ヘルノデアリマス、此ノ私ノ考ヘニ對シテ大臣ハ如何ナル御考ヘヲ持ツテ居ラレカト云フコト、日本ハ國民貯蓄ノ構成ガ賃銀並ニ俸給ト云フ、極ク大マカナコトデ宜シイガ、如何ナル「パーセンテージ」ヲ持ツテ居ルト大藏大臣ハ御考ヘニナルカ、其ノ點承リタイト思ヒマス、序ニ尙ホ大藏省ガ預金通帳記入ヲ以テ俸給ヲ支拂フ制度ヲオヤリニナツテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ私ハ貯蓄債券ヲ賃銀ト同ジヤウニ支拂フヤウナ方途カラ出タモノト思ヒマスガ、其ノ結果ハ如何ナル状態ニ今日ナツテ居リマスルカ、豫定シタヤウナ好結果ヲ取メテ居リマスルカドウカ、又將來モソレヲ御續ケニナル御見込ミデアルカドウカ、更ニ是ハ大藏省以外ニモ普及セシムルヤウナ御考案ヲ持ツテ居ラレカドウカ、是等ノ點ニ付テ御考ヘヲ承ツテ見タイト思ヒマス

○賀屋國務大臣 私ハ國民貯蓄ハ四百何十億ト申シタコトハ決シデアリマセヌ、國民

貯蓄ハ昭和十七年度二百二十億必要デアラウト申シテ居ルノデアリマス、強制貯蓄ノコトデアリマスガ、是ハ武田委員ガオイデニナラス席デハナイカト思ヒマスガ、私ハ度々議會デモ申シテ居ルノデアリマスガ、只今各個人ニ對シテ幾ラ貯蓄ヲシロト法律デ之ヲ命令スルコトヲシナイト云フコトヲ言ツテ居ル、ソレハ幾ラ貯蓄シロト言ツテモ、其ノ引出ヲ全然自由ニシテ置イタノデハ何モナリマセス、引出ヲ法律的ニ制限シナケレバナラス、サウスルト絶對ニソレハ出セスト云フコトニナルト思ヒマス、サウスルトドウ云フヤウニシテ引出シタラ宜イカ、個人ノ自由ニシナイト、誰カガ認メテ、今引出シテ宜イカ惡イカヲ決メナケレバナナイ、之ヲ警察署長ニヤラセルノカ、町會長ニヤラセルノカ、私ハソナコトヲシタラ各個人ノ生活内部ニ干涉スルコトニナル、サウデナクテモ政府ノ要ラス干涉ガ多クテ困ルト云フ時ニ、ソナコトヲシタラ大變ダラウト思フ、ソレハヤラスト申上ゲテ居ル、ソレハヤラヌガ、昭和十三年以來前古木會有ノ大貯蓄ガ出來テ居ル、是ガ國民ノ自覺デ出來テ居ル、飽クマデモ國民ノ自律自奮ニ依ツテ出來テ居ル、工場ハ工場デ賃銀ノ何割ヲ貯メヨ、收入ノ多イ者ハドウシロ、ソコマデ自律ガ出來レバ、是ハ強制ト見レバ強制デアリマセウガ、各人ノ申合セハ、自律デヤツテ戴キタイ、是ガ皆ガ自律デヤラスカラト云ツテ、法律ノ力デ押ヘルト云フコトニナレバドウナリマセウカ、ソナコトデトモ年ニ二百億、三百億ノ國民貯蓄ハ出來ナイ、法律デ押ヘヤウトスレバ逆ニ逃ゲヤウトスル心理ガ働ク、事變以來滿四年二百何十億ト云フ想像モ出來ナ

カツタ貯蓄ガ出來シテ、アノ戰費モ生産力擴充資金モ出來テ居ル、私ハ其ノ國民ノ心意氣ヲ尊重シタイノデアリマス、私ノ氣持カラ申シマシテ、餘リ強制デアルトカナイトカ云フ議論ヲシタクナイノデアリマス、此ノ國民ノ愛國心ヲ育テ、國家ヲ擔ツテ行カウ、戰費ヲ拵ヘテ行カウトスル此ノ意氣ヲオヒヒ燃ヤシテ行キタイト思フ、金融機關ナドト云フモノハ相當繼マツテ居リマスカラ、此ノ位資金ガアレバオ前サンノ方デ公債ヲ此ノ位持ツテモ宜イデヤナイカ、金融機關ナドト云フモノニハ其ノ位ノコトハアリマセウガ、ソレダカラ國民ニ強制貯蓄ヲヤルノダ、是ハ私ハドウカト思フノデアリマス、私ハ飽クマデモ愛國心ニ信賴シテ行ツテコソ、初メテソレガ出來ルシ、ソレデ日本ガ勝拔ケルノデアル、斯ウ思フノデアリマス

○板谷委員長 武田君、モウアナタハ一時間以上モ經ツテ居リマスカラ、簡單ニ御質問ヲ願ヒマス

○武田委員 承知シマシタ、其ノ點ハ其ノ程度ニシテ、私ハ戰時金融庫ニ對シテ二ツ疑問ヲ持ツテ居ルノデアリマス、一ツハ協同證券ヲ之ニ合併スルコト云フ問題、一ツハ取引所ノ投機ヲ抑制スルコト、協同證券ヲ戰時金融庫ニ合同セシメテ、其ノ働キニ依ツテ株價ノ安定ヲ圖ル作用ニ付テノコトデアリマス、ソレヲ時間ノ都合デ二ツ纏メテ一寸伺ツテ置キタイト思ヒマス、協同證券會社ヲ之ニ合併ナサルノハドウ云フ構想カラ出來テ居ルノカ、是マデノ御説明ニ依ツテハ、ドウモ私ハハツキリシナイノデアリマス、從來戰時金融庫ノ設立ノ御説明ヲ承ツテ見ルト、興業銀行デ現在ヤツテ

居ル如ク損失補償ヲ條件トスル命令融資ノヤウナ、個々ノ問題ニ付テヤルヤウナ手續イコトデハイカス、全般的ニ國家ガ損失補償ヲスル建前ニ於テ、サウ云フ金融機關ヲ要スルト云フ意味ニ於テ御説明ニナツテ居ルノデアリマス、ソレハ御尤モデアラウト思フ、所ガ一方ノ協同證券ト云フモノハ損失ヲ建前トシナイ、寧ロ利益ヲ、是ハ建前デハナイケレドモ、實質的ニ於テ損ハシナイデ儲カルト云フ會社ノ設立デアリマス、勿論儲カルト云フコトハ其ノ趣旨ニハナラナイカ知ラスガ、其ノ運用上下ウシモ損ハシナイデ、必ズ儲カルト云フ會社デアラウト私ハ思フ、即チ株價ガ非常ニ下落シテ、極端ナル下落スルト云フ虞ノアル時ニ初メテ是ハ出動スルノデアリマス、サウシテ資金ガ豐富デアリマスカラ、現物ヲ引取ツテ何時マデモ持ツテ居ル力ガアルノデアリマス、極端ニ株價ガ底價マデ低落セントスル時ニ出動シテ、現金ヲ以テ現物ヲ引取ツテ、サウシテ溢リニ賣出スト株價ニ影響シマスカラ、株價ガ相當ノ高値ニナルマデ、ソレヲ保存シテ置クト云フ性質ノ働キヲナス會社デアリマスカラ、ドウシテモ是ハ損ヲシツコハナイ、サウスルト損ヲ建前トシテ居ル戰時金融庫ト、得ヲ建前ト一言ツテハ語弊ガアリマスガ、損ヲシナイ建前ノ協同證券ト云フモノヲ一ツニシナケレバナラスト云フコトハ、私ハ根本觀念ニ於テ間違ツテ居ルト思フ、又損ヲ建前トシテ居ル危險ナル事業ニ投資スル戰時金融庫ノ衡ニ當ル人の構成ハ、株ニ付テ、株界ノ心理ヲ始終見テ居ル人デナケレバ其ノ衡ニ當レナイ、「オペレーション」ニ當レナイ、サウ云フ人の構成ヲ要スル所ノ協同證券ト合併

スルコトニ於テハ、私ハ觀念上矛盾ガアルト思フ、獨リ觀念上ノ矛盾ガアルノミナラズ、實際ノ運用ニ於テモ非常ナ不便ガアル、斯様ニ私ハ思フノデ、ソレヲ合同シナケレバナラス、シタ方ガ宜イト云フ御考ヘガアルノハドウ云フ譯デアルカ、斯ウ云フコトガ一ツ、ソレカラ協同證券ノ作用ニ依ツテノミ株價ノ安定ヲ得ルト云フコトハ極メテ困難デアル、勿論政府ニ於カレマシテハ株式取引ノ制度ノ必要ナルコトハ、他ノ機會ニ於テモ大藏大臣ガ言ハレテ居ル、要スルニ投機ニ屬スル部分ノ株式ノ取引乃至差金賣買ヲ主トスル投機ヲ抑ヘヨウト云フ御考ヘニ進メラレルノデアラウ、又ソレデ宜イデアラウ、所ガ此ノ最高最低ヲ大藏大臣ガ御決メニナル場合ニハソレハ宜イカモ知レマセヌガ、私ハ最高ノ場合ヲドウシテ御決メニナルカ、甚ダ疑ヒヲ持ツテ居ルノデアリマス、株ノ相場ノ最高ト云フノハ、私ハ種々ナル要素ニ依ツテ決セラレルモノト思フノデアリマシテ、ドウモ大藏大臣ガ之ヲ決定スルト云フコトハ、事實上ニ於テ不可能ノコトデハナイカ、寧ロ是ハ差金賣買ノミヲ目的トスル投機ヲ抑ヘルコトヲ目的トスルナラバ、私ハ所謂證據金ヲウント上ゲサヘスレバ、左様ナ弊害ハ全部トハ申シマセヌガ、大部分ソレデ抑ヘラレルモノデハナイカト思フノデアリマス、隨テ株價ノ安定ヲ唯挺子入レダケデ抑ヘラレルト考ヘラレルノカ、又ソレダケデハイケナイカラ、最高最低ヲ決メルト云フ御考ヘガ大藏省ニアルヤウデアリマスガ、其ノ最高ヲ如何ナル方法デ御決メニナルノカ、又私ノ考ヘル如ク、左様ナ最高ヲ決メルコトハ事實上出來ナイコトダ、ソレヲ適正ニ行フコトハ出來

ナイモノダト云フコトニ對シテ、大藏大臣ハ如何ナル御考ヘヲ持ツテ居ラレルカ、私ノ考ヘト致シマシテハ證據金ヲ其ノ實情ニ即シテ引上サヘスレバ、稍、其ノ目的ハ達セラレルノデハナイカト思ヒマス、其ノ點ニ對シテ大藏大臣ノ御意見ハ如何デアリマスカ、私ノ質問ハ此ノ程度ニシテ、御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○賀屋國務大臣 協同證券ハ儲カル建前ト云フ御話デアリマスガ、是ハ考ヘ方デアリマシテ、儲カル建前デアア云フモノガ出來テ居ルナラバ、皆儲ケテ居リサウナモノデアリマス、昨年デアリマシタカ、政府ノ

德意デ出捐シタ人モ、何ト言ヒマスカ、公共ノ爲ニ損ヲシテモ宜イト云フ覺悟デ出捐シタコトト思ヒマス、結局アレガ儲カル結果ヲ今日見テ居リマスノハ、政府ガ腰ヲ入レテ、損ヲシテモ構ハヌカラ、幾ラデモ買ツテ出ルト云フコトガ其ノ一ツノ因デアル、ソコデヤハリ損失ヲ補償スルト云フ一方ノ後楯ガナイトヤレナイノデアリマス、若シ是ガナクシテヤレルナラ、民間デサウ云フモノガ幾ラデモ出來テ、巧ク行ツテ居ルダラウト思フ、ソレガ出來ルノハ損ヲシテモ、何處マデモ腰ヲ入レテ、金ヲ幾ラデモ出スカラト云フ「バック」ガアルカラ出來ルコトデアルト思フ次第デアリマス、戰時金融金庫モサウデアリマス、是ハ私ハ言葉ノ使ヒ分ケダト思ヒマスガ、損ヲスル建前デハナイ、ドウセ算盤ニ合ハナイ仕事ハヤラナイト云フヤウナ御話デアリマスガ、サウデハナイ、算盤ニ合フカ合ハヌカ、從來ノ金融學デハ分ラヌ仕事デアリマスカラ、皆合フヤウニシテ行キタイ、案外巧ク行カモ知レナイ、ソコハ大變違ヒマスガ、別ニ一緒

ニシマシテモ差支アリマセヌシ、何レ金ヲ出ス時ニハ損ヲシテモ構ハヌト云フ政府ノ後楯ガナイト、今ノ協同證券デヤツテ居リマスコトモ出來マセヌコトデアリマス、戰時金融金庫ノ外ノ貸付モサウデアリマス、同ジ性質ノコトガ多分ニアルノデアリマシテ、協同證券ノ方ヲアル人ハ興業金融ヲヤル人トハ違フト云フ御話デアリマスガ、協同證券ノ仕事モ、興業金融ナドヲ考ヘズ、戰時株價ノコトバカリニ注意ヲシナケレバナラヌト云フ程デナクテモ、其ノ運用ハ十分ニ出來ルト思ヒマス、差支ヘナイト思ヒマス

其ノ邊ノ御答ヘハ大體其ノ程度ニ致シマシテ、次ニ株ノコトデアリマスガ、是ハ武田サンモ御承知ノヤウニ經濟界ノコトハ單純ニ行キマセヌ、一筋繩デヤレバ宜イデヤナイカト云フガ、ヤハリ色々攻道具ガ要ルノデアリマス、最低價格ヲ決メル力ヲ持チ、證據金ヲ持上ゲル力ヲ持チ、ウント買ヒニ向フ力ヲ持ツ、無論御話ノヤウニ證據金ヲ上ゲルト云フコトハ有力デアリマシテ、昨年ノ幕アタリカラ、取引所デモヤツテ居ルト思ヒマス、攻道具ハ色々要ルノデアリマシテ、單純デナイ方ガ宜イト思ヒマス、ソレカラ最高價格ニ付デモ、是ハ非常ニヤカマシイ理論ヲ申シマシタラ決着ハ付カヌカモ知レマセヌ、大藏省デモ理窟ヲ言フ人バカリ揃ツテ居ツタラ、議論シテ涯シナイカモ知レマセヌ、ソレデ大體利廻カラ其ノ會社ノ狀況カラ、或ハ周圍ノ經濟情勢カラ、其ノ時ニ是レ以上ニ上ゲサセナイ方ガ宜イト云フ睨ミハ付クモノデアルト思ツテ居リマス

○板谷委員長

此ノ際田村君ノ保留質問ガ

殘ツテ居リマスノデ、之ヲ御許シ致シマス——田村君

○田村委員 實ハ此ノ間政府委員トノ質疑應答ノ際ニ、金融統制會ト産業統制會トノ關係ノコトニ付テ大體御説明ガアツタノデアリマス、其ノ際金融統制會ト産業統制會トノ關係ニ基イテ、之ヲ巧ク運用シテ行ク上ニ、其ノ監督關係上大藏大臣並ニ商工大臣ノ關係ヲドウ云フ風ニシテ行カレルカ、其ノ點ニ付テ大臣カラ御答辯ニナルト云フノデ保留ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ偶、戰時金融金庫ト産業設備團トノ關係ニモ及ブ點デアルト思ヒマス、此ノ際大臣カラ其ノ圓滿ナル運用ニ對スル意味ニ於テ、其ノ監督關係ヲドウ云フ風ニシテ行クカト云フコトニ付テ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○賀屋國務大臣 御答ヘ申上ゲマスガ、尙ホ其ノ前ニ先刻武田サンノ御質問ニ對シテ攻道具ト云フ言葉ヲ使ヒマシタガ、ソレハ惡イ意味ニ於テ取引所ヲ攻メテ居ルト云フ意味デハナク、唯其ノヤリ方ト云フ意味ニ於テ申上ゲタノデアリマスカラ、左様御諒承ヲ願ヒマス

ソレカラ只今ノ田村委員ノ御質問デアリマスガ、産業統制會ガ資金部面、金融部面ニ對シテドウ云フ風ニ活動スルカト云フコトデ、餘程此ノ問題ハ違ツテ參リマス、ソレハ今後ノ活動ニモ、實際ニモ俟タナケレバナラヌ問題デアリマスガ、其ノ統制會内ノ各事業ノ資金部面ニ付テ相當ノ活動ガ伸ビテ來ルヤウニナリマス、是ハ極メテ密接ナル連絡ヲ取ツテ行カナケレバナラヌト思ツテ居リマス、金融統制會ノ方デモ産業ト密接ナ連絡ヲ取ルト云フコトハ一ツノ項

目ガ掲ゲラレテ居ルヤウナ場合デアリマス、ソレハドウ云フ風ナモノデアルカ、是ハ商工大臣トマダ話合ツテ居リマセヌガ、始終兩方デ協議會ヲ開クトカ、兩方デ計畫ヲ通報スルトカ、今後ノ狀況ニ應ジテ極メテ緊密ニ連絡ヲ取ツテ參リタイト思ヒマス

○田村委員 今一點公債政策ノ點デアリマスガ、此ノ點モ過日政府委員カラ今後公債ノ激増ニ伴ウテ貯蓄獎勵ト云フ以外ニ、何等カ新シイ公債消化政策ノ新構想ガ必要デアルト思フコトニ對シテ、政府委員カラノ御答辯ガアツタノデアリマス、ソレハ偶、日本銀行ガ産業金融ニ乗出シタト云フコトト關聯シテ、銀行ノ預金高、銀行ノ資金、資産ノ何割カラ公債ニ振向ケルヤウニシタイト云フヤウナ御答辯ガアツタノデアリマス、ソコデ私ノ聽ク所ニ依リマス、公債ニ新シイ政策ガナケレバナラヌト思フ、ソレニ伴ツテ市中ノ銀行ナドノ間ニ將來公債ガ非常ニ激増シテ來タ場合ニ或ハ公債ノ値下リヲ生ズルノデハナイカ、其ノ値下リガアツタ場合一ツノ用意ヲシテ置カナケレバナラヌト云フコトガチラホラ吾々ノ耳ニ入ルノデアリマス、サウ云フコトニ對スル考ヘ方ナリ、何等カノ對策ヲ御考ヘデアリマスナラバ、此ノ際明確ニシテ戴ク方ガ國家ノ爲ニ良クハナイカト思フノデアリマス

更ニ之ニ關聯シテ昨日デアリマシタカ、本委員會ニ於テ大藏大臣カラ、公債發行額ハ百六十億ト云フコトノ御説ガアリマシタガ、是ハ軍事費公債ダケノ百六十億ノ意味デアリマス、ソレトモ生産擴充資金ニ對スル公債發行額モ入レタ百六十億デアリマス、若シ軍事費ダケデアルトスルナラバ、

其ノ他ノ生産擴充ニ對スル公債發行額ヲ加算致シマス、十七年度ハドノ位ノ豫定デアリマスカラ序ニ御發表願ヒタイと思ヒマス

○賀屋國務大臣 私ハ公債消化ノ方法ハ國民貯蓄ガ増加スル外ニハ何モナイと思ヒマス、アトノ細工ハドンナコトデモ國民貯蓄ヲ増加サス爲ノ方法デアアル、國民ノ貯蓄ガ増加シナイデ公債ガ消化スル途ハナイノデアリマスカラ、國民貯蓄ノ増加一點張デアリマス、ソレヲヤルノニ少クモ増加シ易イヤウニ金利政策モ考ヘマスシ、或ハ投資方面ニ付テモ債券ニ付テ細カキコトヲ言ヘバ割増金附ト云フコトモ考ヘラレマスシ、色々考ヘラレルガ、一ニ是ハ國民ノ貯蓄ヲ増加サスコトニ歸スルノデアリマス、ソレ以外ニハ消化ノ仕様がナイ、ソレ以外ニ公債ヲ持タスニハ日本銀行ノ兌換券ノ増發ダケデアリマスガ、ドウシテモ國民貯蓄ヲ増加シナケレバ消化ノ仕様がナイ、産業資金モサウデアリマス、ソレデ私ハ内部デヨク言ツテ居ルノデスガ、公債消化ニ專念シテ、他ノ社債ノ應募資金ヲ皆減スヤウナコトヲシテ持タシテモ、是ハ一家ノ内デ自分ノ座席ヲ廣ク取ルカ狭ク取ルカト云フヤウナモノデアリマスカラ、ソレデ私ハ國民貯蓄ノ増加一點張リデアリマス、其ノ爲ニハ出來ルダケノ手段方法ヲ盡クシテ行ク、今期議會ニモ餘リ目ボシイトハ申サレマセスガ、税法ノ上其ノ他ニ於テモ種々ノ考慮ハ廻ラシテ居ル次第デアリマス

ソレカラ今年ノ公債ノ發行額デアリマスガ、是ハ百六十何億ト申シマスノハ軍事費公債ノ外ニ政府ガ自ら生産擴充ノ爲ニ投資致シマス所謂政府ノ出資會計ノ公債發行額

ヲモ含シデ居リマス、ソレマデ入レマシテ百六十何億デアリマス、尤モ政府ノ資金ニ依ラズ、株ノ拂込ヤ社債ノ形式デアリマスモノハ無論此ノ以外デアリマスカラ、其ノ他ニ新規ノ興業金融的ノ貸出、新規ノ株ノ拂込社債ト云フモノハ昨年ノ例デ行キマシテモ、六十億位ハアツタノデアリマス、今年ハドウナルカ分リマセス、マダ本當ノ計畫ハ立チマセス、ソレカラ銀行デ公債ノ値下リナドヲ心配スルコト云フコトデアリマスカラ、是ナドハ實ニ自覺ノ至ラザル甚ダシイモノデアリマス、此ノ公債ノ値下リタラドウスルト云フコトデセウ、何處ニ逃ゲルノデアリマセウカ、其ノ逃ゲ場ガアリマセス、臨時資金調整法デ皆統制シテ居リマスカラ、外國ニ逃ゲヨウトシテモ逃ゲラナイデセウ、逃ゲルト云フコトヲ考ヘルノハ昔ノ自由經濟時代ノ考ヘデアル、今日ノ公債ハ「マーケット」ノ一ツノ商品ノヤウニ單ニ賣リタイ時ニ賣ツテ、買ヒタイ時ニ買フト云フ如キ輕イモノデハナイ、全金融機關ハ國民ノ貯蓄ニ依ル公債消化ト産業資金調達ノ機關ナドデアリマス、今日公債ノ値下リナド心配スルト云フコトハ、ソレ自身ガ、日本ノ惡性「インフレーション」ヲ防ガウトスル熱意ガナイモノデアアル、實ニ是程錯覺ノ甚ダシイモノハアリマセス、日本人ハ公債ト運命ヲ共ニスル覺悟ガ要ル、ソレデ戰爭ニ勝ツテ、大東亞共榮圈建設ガ出來ルノデアアル、日本人ガ榮エルノデアアル、自分ダケ公債カラ逃ゲヨウ社債カラ逃ゲヨウト云フヨリ寧ロソレヲ共ニ背負ツテ行ツテ、日本ヲ築キ上ゲヨウト云フ根本ノ觀念ヲ持タナケレバナラナイノデアリマス、若シ公債ガ下ルナドト云フトソレガ惡イ意味ノ金融資本

主義的觀念ダ、私ハ斯ウ思ヒマス

○板谷委員長 世耕君——成ベク簡明ニ願ヒマス

○世耕委員 簡單ニ二、三點要點ダケ御尋ネ致シタイと思フノデアリマス、戰時金融ト興業銀行關係竝ニ日本銀行トノ三ツノ關係ガドウ云フ風ニ調和サレルカト云フ問題ヲ御尋ネ致シタイと思フノデアリマスガ、是ハ各委員トモソレレ、論議サレタ後デアリマスカラ、私ハ此ノ際御尋ネスルコトヲ差控ヘタイと思ヒマスガ、併シナガラ、此ノ日本銀行法ノ附則ニ依リマスルト、此ノ法文ノ施行ハ各條項トモソレレ、勅令ニ依ツテ定メルト云フ餘裕ヲ殘シテ居ル關係モゴザイマスカラ、此ノ際一點ダケ申上ゲテ置キタイと思フコトハ、是ハ今日ノ日本銀行ノ法案ヲ改正シナクテモ、融資命令デ十分行ケルト私ハ確信シテ居リマス、殊ニ只今ノ大臣ノ經濟界ニ對スル御所感等ヲ承ツテ見テ、下手ナ小細工ヲシナクテモ命令一本デ行キハセスカ、ソレヲ色々法律ヲ拵ヘテモ同ジコトデハナイカト云フ感ヲ深クスルノデアリマスガ、併シ是ハ議論ニナリマスカラ申シマセスガ、唯サウ云フコトガ言ヒ得ラレルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、尙ホ大藏大臣ハ新シイ日本銀行ノ總裁ヲ兼任スルノダ——條文ヲ見ルト兼任シテモ宜ササウダ、丁度大政翼贊會ノ總裁ガ内閣總理大臣デアルガ如クニ、イツソノコト之ヲ一本ニシテシマツタラ宜イデハナイカ、此ノ間アトリカラ、政府ノ御説明ニ依リマスルト、政府ト一體ダト云フコトヲ説明サレテ居ル、一體ナラ寧ロ大藏大臣ガ兼任シタ方ガ運用ノ妙ヲ得ルノデハナイカ、ソレナラ今マデノ條文ヲ二三點改正サヘス

レバ直グ其ノ趣旨ガ私ハ徹底スルト思フノデアリマスガ、是ハドナタカ委員ノ方デ御質問ガアツタトスレバ宜シウゴザイマスルガ、御質問ガナケレバ、此ノ際大臣ノ所感ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○賀屋國務大臣 是ハ昨日モ御答ヘ申上ゲテ置イタノデアリマスルガ、物ヲ敏速ニ經ツテヤルト云フコトニナレバ、一人デ何モカモヤツテ居ル方ガ、其ノ方カラ言ヘバ都合ガ宜イノデアリマスガ、大事ナ職務デアリマシテ、仕事ノ分量モ多イノデアリマスカラ、ヤハリソレニ適シタ人ヲ置キマシテ、政府ハ政府デソレヲ監督シテ參ツタ方ガ全體ノ構成トシテ適當デアルト私ハ思ツテ居リマス

○世耕委員 ソレニ付テ何カ根本的觀念ガアルノデゴザイマスカ、唯便宜一片、通り一片ノ議論カラデスガ、其ノ點ヲ伺ヒマス

○賀屋國務大臣 ソレハ政府ニシマシテモ、金融ト産業ハ密接ダト言ヘバ、經濟大臣一人デヤル方ガ便利カモ知レマセスガ、凡ソ人間ニハ仕事ノ分量モアリマス、筋道モアリマス、大藏大臣ハ金融ノ外ニ、歲計、豫算、租税、專賣其ノ他ノコトモヤツテ居ルノデス、又金融デアリマシテ、先程モ御話ガアリマシタヤウナ、相當ニ政府資金ト云フ大キナモノガアリマス、金融ノ大キナ總括方面デアリマスルガ、日本銀行ダケ或ハ金融統制會ダケデ全面デハナイノデアリマス、大藏大臣ハ金融及ビ財政ヲ持チマシテ、其ノ金融ノ中ノ相當ナ部分ヲ日本銀行ガ擔任スル、斯ウ云フ筋合デアリマスカラ、別デアル方ガ本當デアアル、兼ネルト云フコトニナレバ、寧ロ其ノ方ガ一時ノ便宜論デアルト思ヒマス

○世耕委員 一應ノ御議論ヲ思ヒマス
ガ、ソレナラバ寧ロ日本銀行ト云フモノヲ
政府ト一體ト云フヤウナ形ヲ取ラナイデ、
日本銀行獨特ノ立場ニ於テ、大藏大臣ノ權
限ニ於テ運用スルコト云フ方宜イノデハナイ
デスカ、機關長ト運轉手ト一緒ニナレト云
フコトハ無理ダト思フ、機關ハ機關トシテ
ノ職能ヲ發揮スルヤウニ、日本銀行ハ日本
銀行トシテノ獨特ノ立場ヲ存續サセレバ宜
イノデハナイカ、斯ウ云フコトニ又議論ハ
戻ツテ來ルノデアリマスガ、是ハ議論ニナ
リマスカラ申上ゲマセスガ、サウ云フ主張
ガ成立ツト云フコトダケヲ申上ゲデ置キマ
ス

ソレカラモウ一點疑問ノ點ヲ明カニシテ
置キタイト思フコトハ、政府委員ノ方デハ
御取消シニナツタト云フ風ニ聞イテ居ル
デアリマスガ、大藏大臣ハ此ノ間ノ委員ト
ノ質疑應答ノ中デ斯ウ云フコトヲ言ハレテ
居ル、管理通貨制度ノ採用、金本位離脱ノ
點デアリマスガ、是ハ私ハ急速ニ決定致
シタノデアリマス、貨幣ノ本質理念並ニ
社會通念、現實ニ經濟界、經濟力ニ及ボス
影響ヲ慎重ニ考ヘマシテ、決定ヲ致シマシ
タ」又「私ハ前カラ貨幣ハ金ガ裏付ケニア
ルカラ値打ガアルト云フ考ヘヲ實ハ持ツテ居
ナイノデアリマス、貨幣ニ値打ガアルノハ、
ソレニ依ツテ所要ノ物資、勞力ヲ獲得出來
ルカラ値打ガアルノデアリマス」斯ウ云フ
ヤウナコトヲ言ハレテ居ルガ、今モ同様ノ
御考ヘデアアリニナルカドウカト云フコト
ヲ一寸御伺ヒシテ置キタイ

○賀屋國務大臣 前段ハ御尋ネデアリマ
セスガ、重要ナコトデアリマスカラ一言申
上ゲテ置キマスガ、從來ハ日本銀行ト云フ

モノハ政府ノ自由ニナラヌヤウナ存在デア
ル方ガ宜シイト云フヤウナ觀念ガアツタ、
政府ガ通貨ヲ膨脹サセヨウトスルト、日本
銀行ハ、ソレハイカスト云フヤウナコトデ
膨脹サセヌヤウニシテ相控制スル、互ヒニ
自由ニササスト云フヤウナ實際上ノ考ヘガ
アツタ、一體ト云フノハ、其ノ考ヘヲヤメマ
シテ、國家トシテノ一貫シタ方針ヲ行クト
云フノデアリマス、其ノ中ニ於テハ御話ノ
ヤウナ獨立ノ存在デアリマス、從來ハ詰リ
相控制スルト云フヤウナ理念ガ相當ニ舊經
濟思想ニアリマシテ、中央銀行ト云フモノ
ハサウ云フモノナリト云フ觀念ガ相當ニ殘
ツテ居リマシタ、ソレハ近來ハ餘程ナクナ
ツテ居リマスガ、ソレヲ變ヘルト云フノ
デ一體ト云フコトヲ御説明申上ゲテ居ル次
第デアリマス、存在ハ獨立ノ存在デアリマ
ス、獨立デアアルガ、政府ノ金融政策ニ反シ
テヤル存在デアリナイデゴザイマス、ソレ
カラ通貨ニ關シマスル理念ハ此ノ間申上ゲ
マシタ通りデ私ハ少シモ變リガアリマセ
ス

○世耕委員 此ノ點ニ付テ更ニ簡單ニ御尋
ネシテ置キタイト思フコトハ、只今ノ私ガ
讀上ゲタ大臣ノ御説明ヲ其ノ儘採ツテ以テ
說明致シマス、ソレハ「マルクス」ノ所
謂勞働價值說カラ出發シナイト其ノ議
論ハ成立タナイノデアアルガ、ソレニ基イテ
御説明ニナツテ居ルノカドウカ、是ハ
非常ニ根本的ニ重大ナ問題デアリマス、併
シサウ云フヤウナ説ハ、今日流行スルカド
ウカト云フコトハ別ト致シマシテ、極ク原
始的ナ御考ヘナノデス、全ク言フト少シ
上品ナ言葉デ言ヘバ、素朴ナ御考ヘデア
ル、今日ノ貨幣ト云フモノハソナ單純ナ發達
デハナイ、先ツ貨幣ノ職能カラ、學者ノ意

見ノ一致シタ所ヲ見マス、七通り位アル、
第一ハ交易一般ノ要具タルコト、第二ハ價
値尺度デアアルコト、第三ハ消費、貸借ノ目
的物デアアルコト、第四ハ給與トカ納稅トカ
保險トカノ一方の給付ノ用ヲナスコト、第
五ハ財産ノ蓄藏、第六ハ他ノ貨幣ノ基礎タ
ルコト、即チ兌換準備タルコト、第七ハ國
際的職能、私ハ此ノ點ニモウ一ツ附加ヘテ、
歷史的存在ガアル、所謂愛國の價值ト云フ
モノガ此ノ貨幣ノ中ニ現ハレテ來ナクテハ
ナラヌト思フ、唯勞働價值ニ依ツテ、物ノ
生産ノミニ依ツテ貨幣ノ價值ガ定マルト云
フヤウナ御議論ハ、甚ダ超越ナ言葉デアリ
マスケレドモ、百年位前ノ御議論デハナ
イカ、一時「マルクス」學說ガ流行シタ時代
ノ御説トシカ實ハ受取りニクイノデアリマ
ス、貨幣ノ眞價ハ更ニ職能ヲ別ナ方面ニ發
達サシテ居ルト私達ハ感ジテ居ル者デアリ
マス、若シ大臣ガ何處マデモ此ノ所説ヲ枉
ゲナイデ進メラレト云フナラバ、私ハ日
本銀行ト云フ名前ヲ變ヘルベキダト思フ、
本當ノ議論ヲ言フト、同時ニ圓ト云フ名前
モ變ヘナクテハナラヌ、是ハ私議論ヲスル
積リデハゴザイマセスガ、近來大藏省ノ御
説明ノ中ニハ、強ヒテ政府委員トハ申シマ
セヌケレドモ、左翼掛ツタ御言葉ヲ時々聽
クノデ、耳障ノ感ガスル、例ヘバ「何々ノ
段階ニ於テ」「把握シテ」ト云フ言葉、アレ
ハ私ガ大學ノ學生主事ヲシテ居タ時分ニ、
能ク共產主義ノ本ヲ讀ンダ書生ガ使ツタ言
葉デアアル、ソレヲ今大藏省ノ方カラチヨ
イチヨイ聽クノデ、耳障リニナルコトガアル、
必ズシモ大藏大臣ハサウ云フヤウナ言葉ト
カ理念ヲ以テ此ノ貨幣論ヲ御考ヘニナツテ居
ルトハ、私過去ノ履歷ヲ十分承知シテ居リ

マスカラ考ヘナイ、ケレドモ此ノ點ハ今日
此ノ場デ解決シテ呉レトハ申シマセスガ、
何トカーツ御考ヘ置キテ願ヒタイ、是ハ重
大ナ問題デアリマス、唯斯ウ云フコトデハ
ナイカト云フコトヲ私ハ推測シマス、大藏
大臣トシテハ非常時立法デアアルカラ、金貨
本位カラ離脱シタノダ、體テ平和ノ時代ガ
來タ場合ニハ復歸スルノダ、斯ウ云フ御説
明ナラ納得ガ出來ルノデアリマス、ケレド
モ此ノ御言葉ノ中ニアルヤウナ、離脱スル
コトガ當然ナノダ、貨幣ノ本質理念、社會
通念、現實ニ經濟界ノ經濟力ニ及ボス影響
等ヲ慎重ニ考慮シテ斯ウ言フノダト云フヤ
ウナコトハ、ドウモ納得ガ行キニクイ、此
ノ點ヲ一ツ御考ヘガアレバ承ツテ置キタイ
シ、之ニ關聯シテ體テハ兌換條例ノ存置
云々ノ問題ニ實ハ論及シナクテハナラナ
イ、ケレドモ、恐ラク吾々ノ考ヘト同ジ
ダラウト思ヒマスコトハ、兌換條例ノ存
置ニ付テ、マダハツキリシテ御態度ガ決定
シテ居ナイヤウニ承知シテ居リマス、若シ
サウダトスレバ其ノ點ヲ明カニシテ載キタ
イト云フコトヲ希望致シマス

○賀屋國務大臣 私ハ勞働價值說モ何モ採
ツテ居リマセス、ソレカラ今貨幣ノ職能ニ
付テ御話ニナリマシタガ、一向私ノ議論ト
矛盾シテ居マセス、私ガ前ニ申上ゲタ通り
デアリマス

○世耕委員 時間ガアリマセヌカラ詳シイ
説明ヲ申上ゲルコトヲバ差控ヘマスガ、唯
御説ヲ改メナイト云フノナラ御尋ネ致シマ
スガ、紙幣ノ方ガ宜イノダ、貨幣、所謂金
貨ト云フモノハ今後無用ダト云フ點ニ付
テ、先ツソレナラ私御尋ネシマスガ、先程
申シマシタ第五點ニ付テ、財産ノ蓄藏ニ對

シテ、紙幣ヲ蓄藏スル方ガ便利カ、金貨ヲ所藏スル方ガ便利カト云フ、效果のナ點カラ御尋ネ致シマス

○賀屋國務大臣 私ハ今頃文明國デ紙幣ヤ金貨ヲ蓄藏スルモノハナイト思ヒマス、皆有價證券デアルトカ、工業設備デアルトカ、鑛山設備デアルトカ、サウ云フヤウナモノヲ蓄積スルモノダト思ツテ居リマス

○世耕委員 ソレナラ御尋ネシマスガ、最近ハ銀行ニ金ヲ預ケルコトヲ止メテ、自分ノ家ノ金庫ニ紙幣ヲ藏フト云フコトガ、他ノ委員會ニ於テモ事實ヲ指摘サレタノデアリマス、是ハドウ云フ所カラ來タノデアリマス

○賀屋國務大臣 ソレハ文明的ニ進ム段階ニ於テ、一時文明的デナイ後退の現象デアリマス、一時的歪ミデス

○世耕委員 一時的現象ハドウ云フ所カラ現ハレタカト云フコトヲ御承知デゴザイマセウカ

○賀屋國務大臣 詳シクハ知りマセヌデス、空襲ガアツタラ銀行ニ取リニ行ケナイダラウトカ、割合文明的ニ進ム道程ニ於テ、感心シナイ考ヘ方カラ出テ居リマス

○世耕委員 感心シナイ考ヘト云フコトハ、即チ社會通念ノ一ツノ心理ヲ物語ルモノダト云フコトヲ考ヘナクチャナライ、是ハ唯非常立法デアルガ、吾々ハ非常時對策ニ付テ論議シテ居ルノデヤナイ、ソレハソレトシテ、ソレナラソレデ宜シイノデス、アナタハ此ノ貨幣理論ヲ永久ニ之ヲ眞理ナリト斷定サレカラ、自ラ細カイ所マデ論及シテ行カクチャナライ、其ノ點ハ如何デス、アナタハ金貨ト紙幣ガ手許ニアツタ場合ニ、ドチヲ取リマスカ

○賀屋國務大臣 今ノ考ヘヨリ少シ歪シダ人ガ、貨幣ヲ蓄積スルノニ便利ナヤウニ金貨制度ヲ採ラウトハ思ヒマセヌ

○世耕委員 是ハ非常ニ大事ナコトデ、私ハ議論ヲ申上グルノデハナイ、アナタノ貨幣理論ノ根本ニ吾々ト意見ノ一致シナイ所ガアルカラ御尋ネシテ居ル、成ベク議論ハ之ヲ避ケタイト思フノデアリマスガ、又言ヒ切レナイ御立場ガアルダラウカラ、強ヒテ私ハ突込シテ御尋ネシナイノダガ、斯ウ云フ私ノヤウナ議論ヲスル者ガアルト云フコトダケ、記憶ニ留メテ置イテ戴キタイ、是ハ重要ナコトト思ヒマス、私ハ時間ヲ御與ヘ下サルナラバ、十分アナタト得心ノ行クマデ實ハ議論ヲシタイト思ツテ、材料ヲ持ツテ來テ居ルノデスケレドモ、如何セン起チ上ガル時ニ委員長カラ時間ガナイカラト云フ御注意ガアツタカラ、私ハソレ以上申上ゲマセヌガ、此ノ點ハ特ニ大臣ノ周圍ニオイデニナル政府委員諸君ニモ、特ニ御願イシテ已マナイノデアリマス、私ハ結論ダケ申シマスレバ、大臣ハ一方ニ偏シタ議論ヲシテ居ラレルト云フコトヲ、ハツキリ申上ゲテ置キマス

次ニ「インフレ」防止ノ問題デアリマスガ、現在ノ狀況ヲ色々ノ觀點カラ眺メテ行キマスト、遺憾ナガラ「インフレ」ニナラザルヲ得ナイ道筋ヲ辿リツツアル、此ノ點ヲ「インフレ」ニナラナイヤウニ、而モヨク問題ガ公債ニ移ルノダガ、公債ヲ消化スル方法ヲ講ズルコトガオヒノ重大ナ責任ダト私ハ思フノデアリマスガ、此ノ點ニ付テドウ云フ御方針ヲ持ツテ居ラレルカ、御伺ヒ致シマス

○賀屋國務大臣 戰時ハ「インフレ」ニナラザルヲ得ヌヤウナ原因ガ非常ナル力ヲ以テ伏在スルノデアリマス、ソレニ闘ヒ拔クノガ戰時ノ經濟ニ對スル一ツノ大キナ國民的努力デアリマス、ソレハ前カラ申上ゲマシタ通り生産ノ増加、消費ノ規正、國民貯蓄ノ増加、之ヲ強行スル限リ闘ヒ拔ケルト思ヒマス

○世耕委員 只今ノ御返答ハ一應了承致シマスガ、ソレハドウチラカハ精神講話ニデモオイデニナツタ時ニ御説明ヲ願フコトデアツテ、少クトモ此ノ委員會デ拜聴スルノニハ、餘リニ納得シ難イ薄ッペラナ感じガ致スノデアリマス、少クトモ吾々ノ聽カント願ヒタイノデアリマス、私一點事實ヲ舉ゲテ申上ゲマスガ、日本銀行ノ營業ノ擴張、信用ノ増大擴張ハ、反面ニ於テ危險ガ伴フコトデアル、ソレニ付テハ少クトモ當局トシテハ此ノ危險性ニ對シテ安全性ヲ確保シテ行カナレバナラヌ、所ガ吾々ハ他ノ委員會ニ於テモ調査材料ニ依ツテ色々研究シタノデアリマスガ、最近ノ國策會社ト云フモノヲ先ツ觀イテ見マスルト、吾々ノ概算ニ依リマシテモ、拂込額ガ約八十六億、債券ノ發行高ガ四十三億、斯ウ云フヤウナ狀況ニナツテ居リマス、此ノ政府指導ノ下ニヤツテ居ル國策會社ガ、皆成功シテ居ルカト云フト、遺憾ナガラ八割マデハ不成功ニ終ツテ居ル、而モ政府ガソレニ付テ、大キナ會社ニ於テハ數千萬圓、小サナ會社ニ於テモ數百萬圓ノ補助金ヲ給付シテ居ル、所ガ其ノ補助金デハ今日食ツテ行ケヌト言ツテ泣付イテ來テ居ルデハアリマセヌカ、名前ヲ擧ゲレバ、幾ラモアリマス、又或ル會社ノ如キハ、資本金ガ足りナイカラ政府ニモ

ツト出シテ呉レト言ツテ泣付イテ來テ居ル、斯ウ云フコトガ即チ大キナ「インフレ」ノ原因ニナル、之ニ付テ私ハ質問ヲ簡單ニスル意味ニ於テ痛切ナル例ヲ一、二點申上ゲテ置キマス、例ヘバ問題ニナリマシタ帝國鑛發株式會社ノ問題ノ如キ、千五百萬圓ノ政府出資ニ依ル三千萬圓ノ會社ヲ、今度ハ六千萬圓ニ増資シテ、アト三千万圓政府カラ更ニ出資増加ヲ要求シテ居ルノガ、今日法律案ニナツテ居ル、サウシテ補助金ガ四分デハ足りナイカラ、之ヲ六分ニシテ呉レ、ソレヲシテ呉レナカツタ十六年度ノ下半期ノ末ニ於テハ行詰リマスと言ツテ泣付イテ來テ居ル、其ノ會社ノ業績ヲ調べ見マスト、六百有餘ノ鑛山ヲ買入レテ、三ツバカリ山ヲ開イタダケデ、アト六百バカリノ山ヲ抱ヘテ晝寝ヲシテ居ルト云フ狀態デアル、而モ是ハ昭和十四年、時ノ商工大臣八田サンガ、短期間ニ重要鑛物ノ急激ナ増産ヲ確保スル所ノ使命ヲ帶ビタ國家的要求ニ基ク所ノ會社デアルト云フコトヲ言明シテ、休眠鑛山ノ開發ガ使命デアツタニモ拘ラズ、一年、二年經ツタ今日、尙ホ晝寝シテ居ルヤウナ山ニ、更ニ三千万圓、四千万圓ノ追錢ト補助金ヲ出サナケレバ動ケヌ、斯ウ云フヤウナ會社ガ幾ツモ出來テ居リマス、是ハドウシタラ宜イカ、懷ロニアルモノヲ出スノハ結構デアアル、ケレドモ政府ハ國策會社ヲ幾ラ作ツテモ、少シモ徹底シタ監督ヲシテ居ラスデハナイカ、コンナ會社ハ幾ツ出來ルカ分ラナイ、私ハ公債ノ發行ガ何百億出テ來ルカラト言ツテ、ソナコトハ少シモ心配ハシナイ、國民ハ消化シマス、ケレドモ不合理ナ矛盾シタ政策、或ハ國策會社ガ出テ來タ場合ニハ行詰リマスヨ、吾

ツト出シテ呉レト言ツテ泣付イテ來テ居ル、斯ウ云フコトガ即チ大キナ「インフレ」ノ原因ニナル、之ニ付テ私ハ質問ヲ簡單ニスル意味ニ於テ痛切ナル例ヲ一、二點申上ゲテ置キマス、例ヘバ問題ニナリマシタ帝國鑛發株式會社ノ問題ノ如キ、千五百萬圓ノ政府出資ニ依ル三千萬圓ノ會社ヲ、今度ハ六千萬圓ニ増資シテ、アト三千万圓政府カラ更ニ出資増加ヲ要求シテ居ルノガ、今日法律案ニナツテ居ル、サウシテ補助金ガ四分デハ足りナイカラ、之ヲ六分ニシテ呉レ、ソレヲシテ呉レナカツタ十六年度ノ下半期ノ末ニ於テハ行詰リマスと言ツテ泣付イテ來テ居ル、其ノ會社ノ業績ヲ調べ見マスト、六百有餘ノ鑛山ヲ買入レテ、三ツバカリ山ヲ開イタダケデ、アト六百バカリノ山ヲ抱ヘテ晝寝ヲシテ居ルト云フ狀態デアル、而モ是ハ昭和十四年、時ノ商工大臣八田サンガ、短期間ニ重要鑛物ノ急激ナ増産ヲ確保スル所ノ使命ヲ帶ビタ國家的要求ニ基ク所ノ會社デアルト云フコトヲ言明シテ、休眠鑛山ノ開發ガ使命デアツタニモ拘ラズ、一年、二年經ツタ今日、尙ホ晝寝シテ居ルヤウナ山ニ、更ニ三千万圓、四千万圓ノ追錢ト補助金ヲ出サナケレバ動ケヌ、斯ウ云フヤウナ會社ガ幾ツモ出來テ居リマス、是ハドウシタラ宜イカ、懷ロニアルモノヲ出スノハ結構デアアル、ケレドモ政府ハ國策會社ヲ幾ラ作ツテモ、少シモ徹底シタ監督ヲシテ居ラスデハナイカ、コンナ會社ハ幾ツ出來ルカ分ラナイ、私ハ公債ノ發行ガ何百億出テ來ルカラト言ツテ、ソナコトハ少シモ心配ハシナイ、國民ハ消化シマス、ケレドモ不合理ナ矛盾シタ政策、或ハ國策會社ガ出テ來タ場合ニハ行詰リマスヨ、吾

吾ハ矛盾シタ國策ニ反スルヤウナ會社ガ出
テ來タ場合ニ、ソレヲモ愛國の立場カラ鵜
呑ミニシナケレバナラヌト云フ義務ハ持タ
ヌ、此ノ點ハドウデス、私ハ斯ウ云フヤウ
ナモノガ雨後ノ筈ノ如ク現ハレテ來ハセヌ
カト云フ不安ヲ持ツ、是ガ日本銀行ノ職責
ヲ更ニ擴大シ、業務ヲ擴張シ、思フ存分資
金ヲ放出スルト云フ場合ニ、日本銀行ノ本
來ノ使命ガココデ私ハ崩サレハセヌカト思
フ、此ノ危險性ガ多分ニアルノデハナイカ、
此ノ點ニ付テ大臣ノ御考ヘヲハツキリト伺
ツテ置キタイノデアリマス

○賀屋國務大臣 此ノ點ハ前ニモ申上ゲマ
シタガ、産業資金ト云フモノハ、私ハ日本
銀行券ノ發行ニ依ツテ賄フベキモノデハナ
イト云フコトヲ前カラ申シテ居ルノデアリ
マス、産業設備ハ必ズソコニ工場設備、運
輸設備等、一方生産ノ結果出來マシタ資材
ガ要ルモノデアリマス、通貨ガサウ云フ生
産ヲ背景トシナイデ唯通貨タケ出マシタ場
合ニハ、購買力ヲ失ヒマシテ價值ハ下落ス
ルノデアリマス、サウ云フ方策ヲ執ラヌト
云フコトガ所謂「インフレ」防止デアリ、戰
時經濟ヲ維持スルノデアリマス、生産ノ増
加ト申上ゲルノモ、國民貯蓄ノ増加、消費
ノ節約ト申上ゲルノモ、只今モ御話ガアリ
マシタガ、私ハ事變ノ初メカラ極メテ眞面
目ニ是ハ言ツテ居ル、大本ハ此處ニアルト
思ツテ居ル、サウ云フ一方デ生産資材ヲ生
ミ出サユナ背景ノアル國民ノ蓄積ニ依ツ
タ資金ヲ以テ産業資金ハ賄フベキモノデア
ル、ソレヲサウ云フ風ニ合ハセマス一ツノ
方法モ事變以來執ツテ參リマシタ、是ハ日
本トシテハ開闢以來初メテノコトデアリマ
スカラ、運用ハ中々困難デアリマシタガ、

所謂物資動員計畫、ソレニ即應シテ居ル產
業擴充計畫デアリマス、唯無暗ニ産業ヲ餘
計擴張シヨウト思ヒマシテモ、ソレニ必要
ナル擴張設備資材ガナケレバ出來ナイコト
デアルノデアリマス、一方ニ於テサウ云フ
物資動員計畫、産業擴充ノ具體的計畫ヲ、
物資ノ供給量ヲ勘案シテ作ルノデアリマス、
ソレニ應ジテ一方社債ヲ出ス、株ヲ認メル、
資金ノ調整ヲ運用シテ居リマス、是モ事變
以來完全トハ申セマセヌデ、産業再編成ノ
必要モ、ソレバカリデハアリマセヌガ、起
シテ居ルヤウナ次第デ、完全デハアリマセ
ヌガ、大體運用シテ參リマシタコトガ「イ
ンフレ」ヲ防ギ得テ、生産擴充ヲナシ得テ
居ル原因デアルノデアリマス、サウ云フ意
味デアリマスカラ、生産資金モ國債モ、其
ノ資金ハ國民ノ蓄積ニ俟ツノデアリマスガ、
時間の出合ヒト云フコトヲ考ヘマス、何
レ後ニハ國民ノ蓄積ハ溜ツテ來ルノデアリ
マス、又ソレヲ見當ニシテ生産擴充計畫ヲ
決メルノデアリマスガ、現實ニ社債ヲ募集
シヨウト云フ時ニ、今金ガ金融機關ニ集マ
ツテ居ナイデ困ル、仕事ハ始メル必要ガア
ル、サウ云フ時間的期日ニ付テ申上ゲマス
レバ、或ハ數十日トカ數箇月トカ、サウ長
イ何年目ト云フコトデアリマセヌ、又ソ
レデハイケナイノデアリマスガ、一時ソコ
ニ通貨ヲ供給スル方法ガ今マデ不十分デア
リマシタ、ソコデ圓滑ヲ缺イテ居リマシタ
ガ故ニ、今回ノ改正ヲシマシテ、日本銀行
カラサウ云フ通貨ヲ出サセルト云フコトヲ
考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ大體金ヲ
離レタナラバ通貨ガ無制限ニ出テ不安デハ
ナイカト云フ説ニ對シテハ、前ニモ申上ゲマ
シタガ、通貨ノ適量ヲ金ノ存在量ガ決メル

モノデハナイ、是ハ歴史ニ徴シテモ明カデ
アル、ソレヨリ離脱スル、サウスルト據ド
コロガナイカラ一方不安ハ起ルノデアリマ
スガ、元來據ルベカラザルモノニ據ツテ居
ル、ソレカラ離レルガ、アトハ何カト申シ
マスト今申シマシタ一方ノ動的ニ言ヒマス
ト生産擴充トカ國民消費ノ規正トカ、資金
ノ蓄積デアリマス、ソレヲ靜的ニ言ヒマス
ト物資供給計畫、今年ハドノ位物資ガ出來
ル、ドノ位生産擴充ニ充テル、ドノ位國民
消費ニ行ツテ、ドノ位軍需ニ用ヒラレル、
隨テ軍需ノ方面モ戰費ノ最大限ハドノ位、
生産擴充ハドノ位、斯ウ云フ見當カラ立テ
マス、ソレヲ軌道ヲ逸脱致シマセヌデ生産
擴充モ其ノ範圍内デヤリ得ル、ソレデドウ
シテモ軍需ニ餘計要ルト云フナラバ、其ノ
分ダケハ生産擴充ヲ控ヘテ軍需ニ廻ス、或
ハ國民消費ノ方ヲ節約シテ廻ス、此ノ三ツ
ノ調子ヲ取ツテ參レバ無制限ニ出ヤウハナ
イノデアリマス、常ニ國家全體ノ經濟關係
ノ計畫ガ、今申上ゲマシタヤウナ嚴格ナ計
畫ヲ以テ行ツテ、サウシテ一方申シマス
國民所得ハ非常ニ殖エマスガ、國民ガ消費
シ得ル物資ハ限度ガアリマス、其ノ差額ヲ
租稅及ビ國民貯蓄ニ依ツテ回收スル、ソ
レデ今後ノ管理通貨ノ適量ヲ決メル小サイ
モノガ日本銀行ノ所作デアリマス、根本ハ
今申シマシタ物資供給ニ適應シタル國家ノ
生産其ノ他經濟活動計畫、ソレト國民貯蓄
ノ増加、詰リ是ハ別ノ言葉デ言ヘバ、撒布
サレタ日本銀行券ノ回收デアリマス、之ニ
依ツテ通貨ヲ管理シ適量ヲ圖ル、小サイ所
作ハ日本銀行ニ色々書イテアリマス諸法規
定間ニ合ハセル、根本ハ今申上ゲタ點デ參
ル、斯ウ云フ考ヘ方ヲ致シテ居ルノデアリ

マス
○世耕委員 簡單デアリマスカラ今一點ダ
ケ御尋ネ申上ゲテ置キマス、今ノ御説明ノ中
ニアリマシタノデスガ、貨幣ノ根本論ニ付
テ何カ御考ヘニナツテ居ルヤウデアリマス
ガ、實ハ大臣ガ御考ヘニナツテ居ルノハ「ア
ダム・スミス」カラ「マルクス」時代マデヲ頭
ニ置イテ、ソレカラ以後ノ御本ヲ讀ンデ居
イヤウニ吾々ニハ思ハレル、ダカラサウ云
フ議論ガ出テ來ル、貨幣ノ進歩ト云フコト
ヲ無視サレテ原始的ナ經濟理論ヲオヤリニ
ナツテ居ル、實ハ戰爭ト云フモノハ或ル意
味ニ於テ文化ヲ破壊シテ原始ニ還ル一面ガ
アル、ダカラ戰時事變中ト云フ觀念カラ通
貨論ヲナサルナラバ、一言モ御異議ガゴザイ
マセヌト云フコトヲ私ハ申上ゲタ、唯此ノ
貨幣理論ノ根本ノ文明的ナ貨幣ト云フモノ
ヲ論ズル上ニ於テハ、ソレハ物足りナイノ
デハナイカ、永久不變ノ理念ナリト言フカ
ラ實ハ私ガ御尋ネヲシタヤウナ譯デアリマ
ス、併シ是ハ議論ニ互リマシテ御迷惑デア
リマスカラ、此ノ上御尋ネハ致シマセヌ、
尙ホ日本銀行ニ關スル問題デ「インフレ」防
止ヲ吾々非常ニ憂ヘル所以ハ、成程日本銀
行ハ産業其ノ他ノ金融界ニ直接ハ當ラナイ
カモ知レナイガ、要ハ親銀行デアル、頭デア
ル、手足ガ傷ンデ來レバ頭マデ痺レテ來ル、
ソレヲ憂ヘル、ダカラ此ノ際最後ニ大藏大
臣ニ希望スル點ハ、ドウゾ半身不隨ニナラ
ナイヤウニ、産業界、經濟界ヲ立派ニ指導
育成シテ戴キタイ、ソレサヘ出來レバアチ
タノ御説ノ如ク何百億日本ノ公債ガ増加シ
タカラト云ツテ、日本ノ生産力、産業勞働
力ニ依ツテ立派ニ消化スルト云フコトハ少
シモ私ハ疑ヒヲ持チマセヌ、ソレハ同感デ

アリマス、又ソレダケノ威力ヲ持ツテ居ルコト、潜在シテ居ルコトヲ吾々ハ明カニシテ居ルノデアリマス、ソレヲ誤ラシテ居ル所ノ原因ヲ此ノ際大臣トシテハ極力除去シテ戴キタイト云フコトヲ希望致シマス、尙ホ是ハ石坂君カラノ御依頼デスガ、此ノ間質問シテマダ御返答ガナイサウデアリマス、日本銀行法ノ第十二條ノ問題ニ付テ「解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム」ト斯ウ云フコトヲ書イテ居ルヤウデアリマス、此ノ點ニ付テ石坂君カラ質問ガアツテ返答ガナイサウデアリマスカラ、此ノ際承レバ結構デアリマス

○賀屋國務大臣 ソレハ日本銀行ガ解散スルト云フコトハ豫想ヲシテ居リマセヌガ、法律ノ體系トシマシテ、其ノ資産ノ歸屬ト云フモノヲヤハリ規定ヲシテ置カナケレバナラス、其ノ書キ方ハ斯ウ云フ書キ方ガ妥當デアルト云フダケノ立案デゴザイマス

○世耕委員 若シソシナ簡單ナ意味ナラバ、寧ろ是ハ第十二條ノ第一項ハ削除シテ別ノ法文ヲ挿入シタ方が、立法技術ノ上カラ言ツテモ明瞭ダト思ヒマス、其ノ點ハドウデスカ

○賀屋國務大臣 政府ハ是ガ一番適切ダト思ツテ書キマシタノデス

○世耕委員 ソレカラモウ一點、附則デアリマスガ、附則ノ第四十九條ニ「本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フコトニナツテ居リマスガ、是ハドウ云フ譯デスカ

○山際政府委員 四十九條デ各條ニ付テ施行期日ヲ定メルヤウニ致シマシタノハ、御承知ノ通り、從來ノ日本銀行ヲ新法ニ依ル

日本銀行ニ切換ヘマスル爲ニハ、改組委員ノ任命、其ノ改組委員ニ依リ各般ノ手續等ヲ豫メ行ハネバナラスコトモゴザイマスルノデ、ソレ等條文ニ依リマシテ時期的ニ前後ヲ圖リマシテ各條文毎ニ施行ノ期日ヲ定メタイ、斯様ナ準備カラ斯様ナ規定ヲ設ケタ次第デアリマス

○板谷委員 宜シウゴザイマスカ——山本サシ、アナタノ御質問ハ簡單ナラ此ノ際御許シシマスガ、如何デスカ

○山本(參)委員 時間ノ都合ナラ今日デナクテモ宜イト思ヒマス

○板谷委員 本日打切ラウト考ヘテ居リマス、併シ簡單ナ御質問ナラ此ノ際御許シシマス、又明日午後一時カラ討論ニ入りマスケレドモ、若シ簡單ナラ其ノ際御許シシマス

○山本(參)委員 サウ願ヒマセウ

○板谷委員 此ノ際委員長ヨリ此ノ委員會ニ現ハレマシタル質疑應答ノ中ニ、此ノ際政府ノ意向ヲ確メテ置キタイ點ガ二點アリマス、第一ハ今回新日本銀行ガ大東亞共榮圈ニ積極的ニ發展スルト云フコトハ洵ニ宜シイコトデアルガ、併シ現在ハ世界ノ大變革ノ時代デ、何時如何ナル時代ニ安定スルカト云フコトハ、恐ラクハ何人モ見透シガ付カヌコト思フ、又南方ノ建設ニ對シマシテハ是カラ色々ノ事業ガ計畫ヲサレコトデアリマシテ、恐ラクハ各方面カラ注文ガ續出ヲシテ、又意見モ區々デアツテ、收マリガ付カヌヤウナ虞モアルヤウニ想像サレルノデアリマス、此ノ場合ニ此ノ金融ノ重大任務ヲ持ツテ居ル中央發券銀行ハ、公的法人トシテ國家ト一體トナリ、管理通貨制ヲ基礎トシタル恒久的發券制度ヲ設置サレルト云フコトデアル、政府即チ大藏省ニ

於テ絶大ノ權力ヲ持ツコトナルノデアアルガ、ソコニ場合ニ依レバ政治的意義ガ含まレ、或ハ官僚主義ニモ流レ易イ危險ガ伴ハレルヤウニ感ジラレルノデアリマス、金融界ノコトハ御承知ノ通り微妙ナ作用ガ起リ易イモノデアツテ、此ノ前途ノ運用ニ付キマシテハ中々容易ナラヌヤウニ考ヘルノデアリマスルガ、大體先程大藏大臣ノ御話ニ依レバ、日本銀行ニ任セルト云フヤウナコトハ古イ考ヘデアル、ソレカラ離脱シテ政府ト一體トナツテ其ノ運用ヲヤラウト云フコトデアルガ、今後ニ於キマシテ此ノ具體的運營ハ、日銀ノ體驗、經驗アルモノニ或ル程度持タセルト云フコトガ必要デハナイカ、又發券制度ノ限度ヲ決メルコト其ノ他ニ付テモ權威アル委員會ヲ設置シテ萬全ヲ期スルト云フヤウナ御意思ガアルカ否カ、此ノ點ニ對スル大藏大臣ノ言明ヲ求メマス

○賀屋國務大臣 只今ノ時局ニ於キマシテ、只今モ委員長ノ御述ベニナリマシタヤウニ、極メテ國家ハ多事多難、多方面ノ狀況ニ直面ヲ致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ色々ノ考ヘ方ガアリ、各方面色々ノ要求モアリマス、併シナガラ其ノ間ニ政府トシテ此ノ國家ノ存立發展ニ全責任ヲ持ツテ參ルノデアリマス、然リト致シマスナラバ、國家重要機關ガ其ノ運用ヲ誤マルヤウナコトガアリマシテハ、國家ノ存立繁榮ニ非常ナ障礙ガアルノデアリマス、十分ナル注意ヲ以チマシテ、日本銀行ノ堅實ナル發展ヲ圖ツテ行ク、是ガ政府ノ考ヘテ居ル所デアリマス、御懸念ノ點ハ萬ナイヤウニ處置ヲ致シマス、政府自ラガ兌換券ノ無意味ナル制限ナル膨脹ヲ極端ニ防止セント致シテ居

リマス、前々カラ申上ゲルヤウナ貯蓄増加ノコトニ致シマシテモ、最大ノ努力ヲ拂ヒタイト思ツテ居ル位ノコトデアリマス、直接兌換券ノ増發ニナルカ收縮ニナルカト云フコトヨリモ、其ノ根本ニ於テ左様ナ危險ナル増發ガ起ラヌヤウニ、經濟政策ニ對シテ絶大ナル努力ヲ拂フ方針デ居ルノデアリマス、尙ホ直接發行高等ヲ決メマスニ於キマシテモ特ニ委員會ヲ設ケマセヌガ、是ハ日本銀行ノ當局者ノ意見モ十分ニ徴シマシテ、適切ヲ期シタイ、斯様ニ思ツテ居リマス

○板谷委員 今一點伺ツテ置キマスガ、勿論制度ヨリハ人ニアリ、其ノ運用ニアリト云フコトハ言フマデモナイコトデアリマス、所デ此ノ日本銀行ノ役員ノ任期ガ、其ノ儘從來通り總裁、副總裁ハ五年、理事ハ四年、監事ハ三年トナツテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ餘リ長過ぎルヤウニ考ヘルノデアリマス、所謂後進ニ途ヲ開ク、或ハ新事態ニ即應シタル人材ヲ拔擢スルト云フ上カラ、此ノ任期ニ付キマシテハ、大抵外ノ振合ハ三年位ノ程度ニナツテ居ツテ、若シ其ノ人ガ適任デアルトスレバ、更ニ再選スルト云フヤウナコトニナツテ居ルノデスカ

○賀屋國務大臣 日本銀行總裁ノ職務ハ極メテ重大デアリマスノデ、是ハ單ニ新進拔擢デアリマスノカ、後進ニ途ヲ開クト云フコトニ主眼ヲ置キマシテモ決メラレヌ所デアリマス、同時ニ落著イテ銀行ノ使命ヲ考ヘルト云フコトモ極メテ大切ナノデアリマス、尙ホ他ノ會社等ニ於キマシテモ、或ハ滿鐵トカ或ハ北支開發、其ノ他相當大キイモノニ付キマシテハ五年ニナツテ居リマスシ、

又各特殊銀行モ、正金銀行以外ハ左様デアリマス、從來五年ニナツテ居リマシタガ、特ニ之ヲ短縮スル必要ヲ認メマセヌノデ、此ノ點ハ從來通リト致シテ置キマシタ次第デアリマス

○板谷委員長 尙ホ此ノ際戰時金融庫法案ニ對シマシテ、此ノ委員會ニ現ハレマシタ各委員ノ意見ヲ綜合致シマシテ、委員長ヨリ御尋ネ致シマス、大藏大臣ハ先般本委員會ニ於テ、本金庫運用ニ當ツテハ國家ノ産業政策ニ基キ、商工當局ト緊密ナル連絡ヲ執リ之ヲ行フ旨ノ根本方針ヲ明カニサレタノデアリマス、勿論本金庫運営ノ圓滑ヲ期スル上ニハ當然ノコトト思フガ、之ニ對シテ商工當局ト具體的連絡ノ案ガアリマシタナラバ説明ヲサレタイト存ジマス、更ニ又大藏商工トノ連絡委員會ヲ設置スル御意思アリヤ否ヤ、此ノ二點ニ付テ御伺ヒ致シマス

○賀屋國務大臣 是ハ前ニモ申上ゲマシタヤウニ、戰時ノ緊要産業、殊ニ其ノ將來ノ収益性ノ確實ニ付キマシテ不明ナモノヲ對象ト致スノデアリマス、國家ノ産業政策ト極メテ緊密ナ關係ガアリマスノデ、産業政策ノ主管廳ノ意思ヲ非常ニ尊重シテ參リマシテ、特ニ如何ナル産業ニ融資スルカト云フ事業ノ選擇ナドハ、是ハモウ産業官廳主トシテ商工省ノ意見ニ依ルベキモノト思ツテ居リマス、其ノ外各種ノ會社ノ融資ヲ致シマシタ事業ノ監督デアリマストカ、又全體ノ緊密ナル連絡ヲ保持スル爲ニ、斯ウ云フ點ハ豫メ相談ヲシテ行カウ、斯ウ云フ點ハ通知シ合ハウ、サウ云フコトニ付キマシテ事務當局デ相當話ヲシテ居リマス、尙ホサウ云フ方ハ纏メテ行ク積リデアリマス、

尙ホ此ノ金庫ノ理事者、産業營團ノ理事者ナドハ、場合ニ依レバ兼任ヲスル、場合ニ依ルト云フヨリモ多分サウ云フヤウナ方針デ行キタイト云フ積リデ居リマス

○板谷委員長 是ニテ質疑ハ終了シタト看做シテ差支アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○板谷委員長 左様決定致シマス、明日午後一時カラ委員會ヲ開キマシテ討論ニ入りタイト考ヘテ居リマス、ドウカ各派ノ意見ヲ纏メテ御出席アラシコトヲ希望致シマス、尙ホ簡單ナ質問デアリマスルナラバ其ノ際御許シ致シマス

本日ハ是ニテ散會致シマス
午後零時二十分散會

昭和十七年二月三日印刷

昭和十七年二月四日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局